Young Warehouse

# 倉青協創立40周年記念誌

倉庫業青年経営者協議会

Young Warehouse

倉庫業青年経営者協議会のシンボルマークは、会員意識の高揚と会員以外の方からも親しまれることを目的に開発されました。
ヤング（YOUNG）・ウェアハウス（WAREHOUSE）の頭文字「Y」と「W」を使用し、「清新さ」「若々しさ」をモチーフにグラフィックデザイナー・金原明彦氏がデザインを手掛けてくださいました。

# 目　次


Action for next stage! …… 1
会長あいさつ　創立40周年を迎えて …… 醍醐 正明　3
年表　倉青協40年のあゆみ …… 5
開催地 map …… 21
座談会 Part-1　ヒトを育て、会社を育てる組織―それが倉青協だ! 23
座談会 Part-2　親睦と勉強～倉青協に愛を込めて …… 29
寄稿　日本に倉青協あり …… 鈴木 裕司　35
いやー、いろいろありましたね …… 鳥谷部 眞実　37
「倉青協さん」に愛を込めて !! …… 曽根 和光　38
素晴らしき哉、倉青協！ …… 太宰 榮一　39
倉青協の仲間づくりと事業の連携 …… 堀畑 浩重　41
倉青協の意義 …… 生川 泰成　43
「倉青協」のお陰で …… 野口 英徳　45
「親睦と勉強」は伊達じゃない …… 前山　諭　46
優れた人材の宝庫 …… 山田 英之　47
50年、100年と年輪を刻む倉青協に …… 安藤 暢啓　48
倉青協の存在、役割を進化させる …… 若松 孝夫　49
倉青協始まって以来、三世代会員に …… 村田 龍一　50
倉青協という学舎 …… 吉野 栄治　51
倉青協ってスゴイ！ …… 髙嶋 民仁　52
東日本大震災と倉青協 …… 53
倉青協仙台大会 …… 57

# Action for next stage!

Young Warehouse

## 環境変化に適切に対応し、新たなステージへ。

課題や悩みを共有し、互いに刺激を受け、ともに成長

倉庫業青年経営者協議会（以下・倉青協）は、2013年5月に創立40周年を迎えました。50歳以下の倉庫経営者が、「親睦と勉強」という理念の下、全国から集い、同じ立場で課題や悩みを共有し、互いに刺激を受けながら、ともに成長してきました。

こうした倉青協の活動の根幹は40年前と変わることなく、世代を越えて受け継がれています。

現在、倉庫業を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、経営者としてのかじ取りにも判断力とスピードが求められています。倉青協では、地域の倉庫見学をはじめとする会員同士のオープンな情報交換に加え、会員企業の社員も参加する「企業交流会」を積極的に開催するなど、経営のみならず日々の業務に役立つ活動を展開しています。

40周年の節目を前に、わが国は東日本大震災という未曽有の災害を経験しました。倉青協もこの困難を乗り越え、倉庫業の環境変化に迅速かつ適切に対応し、新たなステージに向かわなければなりません。

「Action for next stage!」

倉青協の新しい歴史が、いまここから始まります。

新たなる価値の創造

情報 Information

会員 Members

## 新しい倉庫業 New Warehousing

### 業界のレベルアップ、産・官連携による“倉コミュニケーション”

#### 活動理念「親睦と勉強」

1973年の創立以来、倉青協を貫く理念は「親睦と勉強」です。

当時、日本はオイルショックに端を発し、高度経済成長が終わりを告げ、景気悪化と財政悪化という国難の様相を呈していました。国家の隆盛を憂う倉庫業青年経営者有志たちの間では、新たな業界のあり方を模索し、既存の活動とは異なる新団体結成の機運が高まっていました。

各地の有志たちは、新組織について

①全国組織であるため、まず会員同士が知り合い、意思の疎通を図ること

②経営者としての研鑽、倉庫業の勉強を中心として、幅広い資質の向上を図ること

こそが互いの志であると確認しあいながら同志を募り、これが創立以来、当協会を貫く「親睦と勉強」の理念となりました。

当協会についての初期メンバーの言葉に、「互いに血の通った相互補完の関係を保つための組織であり、物流革新下の倉庫業の将来のあるべき姿について、若者同士の模索の場である」とあります。それは奇しくも、リーマンショック・欧州債務危機・東日本大震災をはじめとした、経済的に困難な状況下の今日のわれわれの課題となんら変わるものではありません。

当協会には、協会組織としては他に類をみない、互いの共通課題を率直に話し合える風土があります。会員同士の連帯意識が緊密で、「何でも腹を割って話せる」という文化的な特色があります。

これは創立以来、歴代の先輩たちからの貴重な財産であり、当協会の最も重要な文化と言っても過言ではありません。

#### 活動内容

年1回、総会が東京で、また、年2回の全体会が地方で行われています。

総会や全体会では、有識者による講演や同業者の事例研究を行い、「勉強」をしています。全国各地で開催される全体会は、地方幹事の創意工夫がこらされて多彩な催しが企画され、「親睦」の助けとなっています。

会員のみならず、会員企業の社員も参加して行われる「企業交流会」では、各種物流施設の見学をはじめとして、社員に幅広い見識を培いたい会員の希望により、異なる業種の施設の見学も積極的に行われています。見学の後には、グループワークや討論会によって、交流と相互理解を深める活動となっています。

近年は、実務に即した政策への提言を積極的に行おうと、国土交通省の物流政策担当との情報意見交換にも取り組んでいます。

さらには、会員同士の自主的な勉強会や、親睦会、異業種との情報交換会、地方ごとの会員による勝手連的な新規会員掘り起こし活動や、既存会員の結束を強める活動など、常に革新と変化を求める「若手経営者」らしく、パワフルで、既存の枠にとらわれない活動が、各方面で活発に行われています。

倉庫業青年経営者による積極的な知的交流

# 創立40周年を迎えて

醍醐倉庫株式会社　代表取締役社長
醍醐　正明

倉庫業青年経営者協議会
第19代会長

倉庫業青年経営者協議会は1973年5月に設立され、今年で40周年を迎えることになりました。40年といえば成人式2回分。メンバーも設立当初から全員入れ替わり、メンバーの中には3世代連続倉青協会員の方も出始め、あらためて歴史の長さを感じます。こうした長い期間、活発な活動が継続してこられたのも、ひとえに先輩会員各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

倉青協は設立当初から、「親睦」と「勉強」を二本柱に活動してきました。この「勉強」について、各社の情報開示のオープンさにはずっと驚かされました。なんでこんなことまで教えてくれるんだろう、という驚きが参加当初の頃からありました。他の会では考えられないざっくばらんな会風に幾度となく助けられました。この仲間にならすべてを見せても大丈夫という深い信頼感が、倉青協に対してあるからだと思います。また50歳以下という青年期に知り合えているということも影響しているのかもしれません。

50歳以下の同世代で、社長もしくは後継者という同じ立場で、倉庫業という同じフィールドで商売をしている仲間。そうした同じ境遇にある者の全国の集まり。そのメンバーが一堂に会するというだけでも大きな意味があると思います。また「親睦と勉強」という理念をもとに一生懸命に取り組んできた長い伝統が、今の倉青協を形づくっているのだと思います。

ここまでざっくばらんになれるのは、日頃のあそこまで爆発する懇親会ですべてをさらけ出しているからかもしれません。

2011年3月11日の東日本大震災は日本全体に大きな傷跡を残しましたが、会員企業にも大きな影響を与えました。震災後の対応は、倉青協のまとまりを示すきっかけになったと思います。今回の記念冊子では「東日本大震災と倉青協」というテーマで特集を組ませていただきました。詳細は特集をご覧いただければと思いますが、この地震大国の日本では いつまたどこで大きな地震が起こるか分かりません。非常の事態には、会員みんなで助け合い、支援するという気持ちを忘れないために、記録させていただきました。

今後とも倉青協の良い伝統を引き継ぎ、さらに活発な活動になっていくことを祈念して、挨拶に代えさせていただきます。今後50周年、100周年を迎えていく倉青協がどのように変遷していくか楽しみです。

## 歴代会長（1～19代　1973～2013）

**初代**（1973.5～1977.5）
「親睦と勉強」
鈴木 又右衛門
太成倉庫（株）

**第2代**（1977.5～1979.6）
「親睦と勉強＋助け合い」
河野　鐵雄
湘南倉庫運送（株）

**第3代**（1979.6～1981.6）
「協業」
古川　浩司
芸備倉庫（株）

**第4代**（1981.6～1983.6）
安田　肇
大黒倉庫（株）

**第5代**（1983.6～1985.6）
「道は一つ共に進もう」
清水 修一郎
中京倉庫（株）

**第6代**（1985.6～1987.6）
「倉庫業を見直そう」
西尾　忠朋
（株）西尾倉庫

**第7代**（1987.6～1989.6）
「倉庫業の明日をめざして」
小泉　駿一
第一倉庫（株）

**第8代**（1989.6～1991.6）
「元気のでる倉庫業へ」
山本　信彦
小樽倉庫（株）

**第9代**（1991.6～1993.6）
鈴木　威雄
（株）富士ロジテック

**第10代**（1993.6～1995.6）
末長　範彦
岡山土地倉庫（株）

**第11代**（1995.6～1997.6）
「倉庫業の未来に夢を語ろう」
大竹　広明
三信倉庫（株）

**第12代**（1997.6～1999.6）
「倉庫会社の生き残り戦略」
眞鍋　博俊
（株）博運社

**第13代**（1999.6～2001.6）
「希望の持てる二十一世紀の倉庫業を見据えて」
森本　啓久
森本倉庫（株）

**第14代**（2001.6～2003.6）
「明るく改革する倉庫業を見据えて」
黒川　久
東邦運輸倉庫（株）

**第15代**（2003.6～2005.6）
「会員会社の企業規模での交流」
樋口　恵一
川崎陸送（株）

**第16代**（2005.6～2007.6）
「明るく改革する倉庫業を見据えて」
社本　光永
福玉精穀倉庫（株）

**第17代**（2007.6～2009.6）
「親睦と勉強、真面目な倉庫業」
鈴木　篤
太成倉庫（株）

**第18代**（2009.6～2011.6）
「倉庫業の明日を創造する」
淺野　邦彦
淺野運輸倉庫（株）

**第19代**（2011.6～2013.6）
「Action for next stage!」
醍醐　正明
醍醐倉庫（株）

# 倉庫業青年経営者協議会のあゆみ

## 1973～1983

### ●「親睦と勉強」テーマに倉青協が発足

1973年5月、全国から50歳以下の倉庫経営者120人が集まり、日本倉庫協会と連携しながら明日の倉庫業を若い力で造り上げようと「倉庫業青年経営者協議会」が設立されました。初代会長に就任した鈴木又右衛門会長が掲げたテーマが「親睦と勉強」です。当時倉庫業は物流合理化のほか、コンピュータシステムの導入や荷役の機械化など時代の要請に対応することが求められていました。設立からまもなく、76年には倉青協有志による「日本縦貫倉庫グループ」が発足します。全国規模のサービスを提供するために中堅倉庫会社の協業を目指したもので、倉青協は同業者によるネットワークの重要性をいちはやく認識していたといえます。

### ●グローバルな視点を倉庫業に導入

設立当初の倉青協の活動の中で、注目すべきなのが海外研修です。初の海外研修を77年に行い、78年にはヨーロッパ視察とアテネでの国際倉庫協会連盟（IFWLA）にオブザーバーとして14人が出席しました。歓迎を受けた一行は、翌年には香港大会に出席するよう要請を受けます。帰国後、日倉協の IFWLA への参加を働きかけ、日倉協に国際委員会が発足することになりました。そして83年には IFWLA 総会が日本で開かれることになります。昨今、製造業の海外シフトによるグローバル化、ボーダレス化が加速し、倉庫業の対応が課題となっていますが、倉青協は設立まもない頃からグローバルな視点を持っていたことは興味深いことです。

## ■全体会・総会の記録

## ■一般社会・物流の動き

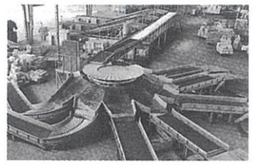
### 1973（昭和48）

5.18 **設立総会**　東京　パレスホテル
運輸省　佐藤 政務次官
日倉協　竹内 会長
東倉協　八十島 会長
運輸省　増田 倉庫課長

7.20 **第1回全体会**　大阪　ロイヤルホテル
運輸省　増田 倉庫課長
「広い心、受け入れる心、柔らかい心の三つの要素を
忘れずに会の運営に当たってほしい」

10.5 **第2回全体会**　東京　ホテルニュージャパン
運輸省　増田 倉庫課長 「倉庫の集団化」
中小企業金融公庫　河野 次長 「倉庫業における金融について」

1月　パリでベトナム和平協定調印
2月　円、変動相場制へ移行
4月　春闘で史上初の交通ゼネスト
10月　第一次オイルショックでトイレットペーパーパニック
12月　政府が石油緊急対策要綱決定



福山通運が北九州支店に導入したトラック業界初の自動仕分け機

### 1974（昭和49）

2.8 **第3回全体会**　名古屋　都ホテル
東海海運局　山田 運航部長 「今後の倉庫業のあり方」

5.14 **第2回総会／第4回全体会**　東京　東京会館
運輸省　増田 倉庫課長 「48年度問に於ける報告事」
「49年度行政方針について」
河野 参議院議長 「一隅を照らすこれ国宝」

7.18 **第5回全体会**　石川　片山津　矢田屋
日倉協　岡田 専務理事 「日倉協活動状況及び強化について」
西川 流通委員長 「国鉄問題について」
前田 財務委員長　1「景気見通しへの指標として」
2「日倉協財務委員会について」
3「これからの倉庫経営について」

10.23 **第6回全体会**　神戸　神戸国際ホテル
運輸省　増田 倉庫課長　1「倉庫整備5カ年計画の推移について」
2「料金改定問題」
3「税制、金融、財投について」
4「物流行政の指向」
大阪港湾福利厚生協会　川田 理事 「経営者に望むこと」

2月　公取委が石油元売12社の生産・価格カルテル破棄を勧告
4月　東京・旧赤坂離宮を改修した迎賓館完成
5月　環境庁がディーゼル車にも排ガス規制
8月　三菱重工ビル爆破事件
◆　インフレ・物不足が深刻化



## 1973～2013

### 1975（昭和50）

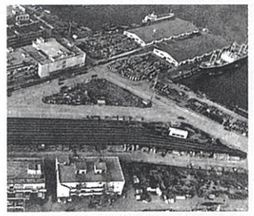
3.14 **第7回全体会**　福岡　博多東急ホテル
早稲田大学　中西 教授 「転換期に於ける倉庫業について」
運輸省　増田 倉庫課長

5.21 **第3回総会／第8回全体会**　横浜　横浜ホテルニューグランド
国旗協会　平田 敬量 常任理事

7.21 **第9回全体会**　仙台　仙台作並グリーングランドホテル
運輸省　近藤 倉庫課長
「これからは低成長が通説になる。現業者は物流に対する
対処は正しいか質的な面で考え直す必要がある」

11.1 **第10回全体会**　沖縄　沖縄不二ホテル
日本銀行那覇支店　河野 支店長 「沖縄復帰後の経済」

3月　山陽新幹線が博多までの全線開通
7月　沖縄国際海洋博開幕
8月　大手繊維メーカーの興人が 1500 億円の負債で倒産
11月　公労協「スト権スト」に突入。192 時間にわたり国鉄全線マヒ
◆　物流業者が流通加工業に積極的進出



急増する輸出荷物で賑わう横浜港

### 1976（昭和51）

2.13 **第11回全体会**　広島　広島グランドホテル
蚕糸倉庫　花井 社長 「全体会映画」
鈴木 会長　1「遠隔地間での業務提携」
2「物流の中心は倉庫業である」

5.28 **第4回総会／第12回全体会**　東京　ホテルニューオータニ
河野 参議院議長　1「事業は環境によって育ち人によって滅ぶ」
2「日本に大事なことは食料問題だ。
今日あって明日の保証はない」
3「サビは鉄から出て鉄を滅ぼす」
4「体育、知育、徳育、体に財を蓄える」

7.20 **第13回全体会**　札幌　札幌全日空ホテル
日倉協　高味 常務理事　1「損害賠償の問題について」
2「料金問題について」
3「税金問題について」
4「金融面について」

10.29 **第14回全体会**　京都　京都グランドホテル
早稲田大学　中西 教授 「レポートによるアメリカの倉庫協会」
京都大学天文学博士　宮本 名誉教授

2月　ロッキード事件発覚
3月　運輸省が新倉庫整備5カ年計画を策定
11月　国鉄貨物運賃 53.9%値上げ
◆　荷主が物流子会社設立に動く
◆　小口貨物輸送、内航海運の見直し
◆　共同配送の具体化へ
◆　物流業界の不況が長期化
◆　国鉄運賃の大幅値上げに伴い荷主の国鉄離れ進む
◆　日本縦貫倉庫グループ誕生
◆　運輸省がボックスパレット推進へ

### 1977（昭和52）

2.18 **第15回全体会**　別府　別府杉の井ホテル
日倉協　岡田 専務理事　1「料率実施委員会の組織の強化」
2「物流について」
大分市　佐藤 市長 「現在の経済情勢及び大分市の現況について」

5.20 **第5回総会／第16回全体会**　東京　パレスホテル
運輸省　石井 一 政務次官
「空港問題、国鉄問題について」
運輸省　坪井 倉庫課長 「業界のあるべき姿について」

7.22 **第17回全体会**　岐阜　長良川ホテル
西濃運輸（株）　田口 社長
「私の経営路線、理念について」
日倉協　高味 専務理事 「53年度種別財政融資について」
運輸省　坪井 倉庫課長 「業種展望並びに将来予測について」

11.9 **第18回全体会**　奈良　菊水楼
日倉協　高味 専務理事 「日倉協の動向について」
薬師寺管主　高田 好胤氏 「南方諸島戦没者慰霊法要の土産話」

5月　領海12海里、200海里漁業水域設定法案が国会通過
経営危機で安宅産業が伊藤忠商事と合併
6月　3年8ヶ月ぶりに、円相場が1ドル270円を割る
◆　不況長期化で倒産件数が増加に
◆　国鉄貨物量の大幅減少
◆　各種公定料金の値上げ相次ぐ
◆　「小口宅配貨物」に人気集中

## ■全体会・総会の記録　■一般社会・物流の動き

### 1978（昭和 53）

2.23 **第19回全体会**　浜松　浜松グランドホテル
静岡経済研究所　山崎 部長「経済情勢の現状と将来展望」

6.14 **第6回総会／第20回全体会**　東京　パレスホテル
運輸省　坪井 倉庫課長
1「物流全般について」
2「物流子会社に対する問題」
3「自家用倉庫と営業倉庫の考え方」
小此木 参議院議員
「一般情勢及び国会内に於ける委員会の活動状況審議成立等」

8.25 **第21回全体会**　箱根　箱根プリンスホテル
花王石鹸（株）　山越 専務取締役
1「物流の問題　花王のシステムについて」
2「倉庫としての流通設計システムをもっているか」

10.27 **第22回全体会**　神戸商工会議所
日倉協　高味 専務理事
1「倉庫業法改正について」
2「消費税について」

1月　円相場が1ドル237円台を記録
10月には175円に
2月　大手住宅メーカーの永大産業が会社更生法申請
5月　新東京国際空港（成田）開港
◆　ユニット・ロード・システムの見直し

### 1979（昭和 54）

3.15 **第23回全体会**　高知　三翠園ホテル
「日倉協報告」
1. 国際倉連、香港大会
2. 倉庫業海外視察団、今年はヨーロッパを予定
3. 中国から倉庫視察団が来日

6.14 **第7回総会／第24回全体会**　東京　パレスホテル
循方 彰 元NHK解説委員長
「アメリカ、ソビエトの軍需力、平和共存、現在エネルギー問題となっている石油の輸出入等について」

8.30 **第25回全体会**　岡山　国際ホテル
岡山大学法文学部　福田 部長
「中華人民共和国と台湾等を旅してみた古い中国」

11.18 **第26回全体会**　京都　都ホテル
松尾寺住職　松尾心空師
「人間はこの世の間借り人である」

1月　米・中外交関係30年ぶり樹立
5月　通産省、ガソリンスタンドの日・祝日休業の行政指導強化
6月　東京で初のサミット（先進国首脳会議）開催
7月　東名高速道日本坂トンネル火災事故で通過車両169台炎上の大惨事
11月　第2次オイルショック

### 1980（昭和 55）

3.28 **第27回全体会**　宮崎　サンホテルフェニックス
自民党農林水産部　近藤 会長
「現在の政治情勢、予算編成の問題点、食管制度その他の社会問題について」

5.28 **第8回総会／第28回全体会**　東京　パレスホテル
日本国有鉄道　高木 総裁
「現在の国鉄に於ける特異な体質、これからの国鉄の経営方針等について」

8.8 **第29回全体会**　静岡　修善寺グランドホテル
修善寺町文化財保護委員会　長倉氏

11.17 **第30回全体会**　横浜　横浜プリンスホテル
NHKアナウンサー　鈴木 文弥氏
「スポーツ界での指導者から教わったこと、見て感じたこと」

4月　電力50.8%、ガス45.3%の大幅料金アップ
6月　憲政史上初の衆参同時選挙
9月　イラン・イラク全面戦争
12月　自動車生産台数が1,104万台で世界一に
◆　「スリップシート」が話題を呼び、研究が盛んになる
◆　「運送状に印紙貼付」を国税庁から指導要請

### 1981（昭和 56）

2.26 **第31回全体会**　鳥羽　国際ホテル
神宮司庁　佐藤 昭典 神宮官掌
「神宮をささえるもの」
矢野 憲一 神宮権弥宜　佐藤 昭典 神宮官掌
「1500年つづくもの」

6.17 **第9回総会／第32回全体会**　東京　パレスホテル
新赤坂クリニック　松本 康夫 院長
「攻めの健康法、守りの健康法」

8.28 **第33回全体会**　名古屋　名古屋観光ホテル
名古屋商工会議所　三宅 重光 会頭
「オリンピックについて」

11.20 **第34回全体会**　広島　広島グランドホテル
マキ・レディス・トレーニングルーム　菅原 マキ氏
「経営者のための健康体操」

2月　神戸ポートピア'81開幕
4月　米国有人宇宙連絡船「スペースシャトル・コロンビア」初飛行
5月　日米自動車摩擦、乗用車の対米輸出規制
6月　運輸省が隔地間一貫輸送の規制を緩和
10月　北炭夕張炭坑火災、死者93人
12月　宅配便取扱個数が約1億個で郵便小包を超える
◆　国鉄赤字1兆円を突破
◆　物流子会社の一般荷主開拓すすむ

省力荷役の決め手としてターミナルに設置された自動仕分け機

### 1982（昭和 57）

3.5 **第35回全体会**　熱海　大月ホテル
東京芝浦電気（株）　鬼頭 明 物的流通部長

6.24 **第10回総会／第36回全体会**　東京　パレスホテル
東レ（株）物流担当　堀江 理事

8.7 **第37回全体会**　仙台　三井アーバンホテル
山田 新作氏
「リーダーシップ」真珠湾特攻体験を通じて

11.18 **第38回全体会**　富山　富山第一ホテル
北陸経済研究所　杉木 正享 常務理事
「これからの経営課題について」

2月　経済企画庁、GNPゼロ成長見通し
東京・ホテルニュージャパンで火災
日航機が羽田沖に墜落
4月　500円硬貨発行
6月　東北新幹線（大宮〜盛岡間）開業
11月　中央高速自動車道が全面開通
上越新幹線（大宮〜新潟間）開業
12月　行政管理庁が通運・トラック事業規制見直しを勧告
◆　在庫調整が浸透・営業倉庫の稼働率低下
◆　物流革新がハードとソフトの両面ですすむ

### 1983（昭和 58）

6.17 **第11回総会／第39回全体会**　東京　パレスホテル
東京芝浦電気（株）　山本 直三 OA機器事業部長
「オフィスオートメーション時代の物流業」

9.2 **第40回全体会**　札幌　京王プラザホテル
トヨタカローラ札幌（株）　高柳 邦夫 取締役サービス本部長
「サービス業におけるTQCとは何か」

11.18・19 **第41回全体会**　川崎　日本電気研修センター
ヘルシーライフ協会　主宰　寒河江 徹氏
「現代病に打ち勝つ健康法」
中京倉庫（株）　鈴木 健二 専務取締役
「TQCの導入について」
日本電気（株）　情報処理流通サービスシステム事業部
沼元 康明 第一販売推進部長
「C&C時代における物流業界情報化の動向」

3月　中国高速自動車道が下関まで全面開通
臨時行政調査会が「増税なき財政再建」と最終答申
4月　千葉県浦安に東京ディズニーランド開業
6月　初の比例代表制（全国区）で参議院議員選挙
国債発行残高が初の100兆円突破
8月　金融機関の第2土曜日休日スタート
◆　物流業のVAN（付加価値通信網）事業への取組が盛んになる
◆　TQC（品質管理）活動が活発化
◆　国際倉庫協会連盟東京大会が開催

国鉄が東京・大井に開設した東京貨物ターミナル

# 1984～1993

## ●共通テーマとして「TQC」を展開

80年代以降、日本経済はバブル期に向かい、民間の倉庫着工数も大きな伸びを見せましたが、経済成長に陰りも見え始めました。こうした中、倉青協では各社が共通して取り組めるテーマとしてTQC（品質管理活動）を研究し、会員各社が導入を進めました。85年には発表会が開かれ、各社にとって刺激となり、財産となりました。また、倉庫業の認知度を高めるため、倉青協のシンボルマークとして「YWマーク」を作成し、倉庫業を表現する愛称を会員から募集しました。応募の中から選ばれたのが「ビッグポケット」です。広大なスペースをイメージさせるとともに、スペースを商品とする倉庫業の未知の可能性を感じさせる愛称となりました。

「TQC」発表会の記録資料

## ●CPクラネット、押入れ産業が誕生

「日本縦貫倉庫グループ」という形で中堅倉庫による協業の道を開いた倉青協ですが、時代の要請に対応し、また新たな取り組みを誕生させることになりました。それが「CPクラネット」（1984年発足）、「押入れ産業」（1987年発足）です。倉青協は当時から、コンピュータについて熱心に勉強しました。「CPクラネット」は、倉庫業に特化した情報システム会社として設立され、現在に至るまで倉庫業の経営・業務の効率化に大きく寄与しています。「押入れ産業」はコンテナの屋内保管をコンセプトとしたフランチャイズ方式のトランクルームサービスを展開し、倉庫会社のBtoCビジネスの先駆けとなりました。現在の「押入れ産業」の強みである全国ネットワークは倉青協メンバーによる協業の姿勢が母体となっているのです。

1984年にスタートした押入れ産業

## ■全体会・総会の記録

### 1984（昭和59）

3.8 **第42回全体会**　静岡　静岡ターミナルホテル
千葉商科大学商学部　水野 恵司 教授
「ベンチャービジネスについて」
フレッシュシステムズ（株）　高倉 衛 取締役社長
「フレッシュシステムについて」

6.22 **第12回総会／第43回全体会**
東京　ホテルグランドパレス
（株）G&G　松田 康之 取締役社長
「中小企業VANについて」
武蔵工業大学　俵 信彦 助教授　「TQCの導入について」

9.1 **第44回全体会**　軽井沢　軽井沢プリンスホテル
（株）アトム　片岡 巧男 取締役社長
「スシタイム・ベンチャービジネスについて」
（株）ダイケイ　伊藤 彰彦 取締役社長
「新規事業分野の開発について」

11.22 **第45回全体会**　山口　宇部ゴルフ観光ホテル
（株）日本マーケティングセンター　船井 幸雄 取締役社長
「昭和60年代企業経営成功の決め手」
（株）西友　佐久間 仁 住宅用品事業部付部長
「流通業における物流の現状と今後の課題」

### 1985（昭和60）

4.18 **第46回全体会**　大阪　千里阪急ホテル
ミサワホーム（株）三沢 千代治 取締役社長
「住宅産業の現状と将来展望」

6.21 **第13回総会／第47回全体会**　東京　パレスホテル

10.3 **第48回全体会**　仙台　ホテル仙台プラザ
東京団地倉庫（株）西川 謙一郎 取締役社長
「倉庫業に未来はあるか」

## ■一般社会・物流の動き

8月　運輸省機構改革で陸運事務所を陸運支局に改称
10月　関西国際空港株式会社が設立
11月　新札発行、1万円福沢諭吉、5千円新渡戸稲造、千円夏目漱石の肖像
東京・世田谷で地下通信ケーブル火災、銀行オンラインが全面マヒ
12月　英国と中国が1997年香港返還に調印

3月　茨城県つくば学園都市で「科学万博」開幕
4月　電電公社、専売公社が民営化へ。日本電信電話（株）、日本たばこ産業（株）として発足
8月　日航機が群馬県の山中に墜落し、死者520人
9月　道路交通法改正でシートベルト着用義務づけ
10月　関越高速自動車道が全面開通
11月　運輸省が標準宅配便約款を施行

### 1986（昭和61）

4.18 **第49回全体会**　香川　高松グランドホテル
朝日新聞大阪本社　藤本 高嶺 編集委員
「チャレンジ精神を育てよう」

6.20 **第14回総会／第50回全体会**　東京　パレスホテル
第2回TQC発表会

10.6 **第51回全体会**　神戸　三宮国際ビル
（株）竹中工務店　河田 剛 開発計画本部副本部長
「土地の有効利用と開発動向について」
三井リース（株）木地本 武 機械営業部第2部長
「リース事業（レバレッジリース）について」
（株）三井信託銀行大阪支店　市原 賢之助 不動産部次長
「資産の有効活用（不動産信託）について」

1月　米国自動車販売台数のうち、日本車シェア21.8%に
4月　ソ連チェルノブイリ原子力発電所で大規模な爆発事故
男女雇用機会均等法施行
8月　標準トランクルーム・サービス約款実施
11月　国鉄が東海道・山陽本線でピギーバック輸送開始
12月　防衛費1%枠突破

### 1987（昭和62）

3.12 **第52回全体会**　北海道　定山渓温泉　ホテル鹿の湯
（株）日通総合研究所　森田 稔 専務取締役
「売上税について」

6.17 **第15回総会／第53回全体会**　東京　パレスホテル
日本電信電話（株）式場 英企業通信システム事業部長
「高度情報社会における企業のニーズと通信の役割」

10.3 **第54回全体会**　長野　ロッジ三井の森
懇談会
「運輸省神谷補佐官と倉庫業の未来を語る会」

1月　関西国際空港の建設工事着工
2月　NTTの株式が初上場
3月　標準引越約款・取扱約款実施
4月　国鉄分割・民営化でJR6 旅客会社「日本貨物鉄道」発足
9月　東北縦貫自動車道が全面開通。青森市から熊本県八代市まで2,002キロが高速道路で結ばれる
10月　株価が世界的に大暴落
11月　AWJが日本たばこ産業等とタイアップして「押し入れ産業」を発足
◆　輸送・倉庫業界の国際物流への進出

### 1988（昭和63）

3.28 **第55回全体会**　福岡　ホテルニューオータニ博多
江頭 光氏　「新博多史　三つの出来事」

6.24 **第16回総会／第56回全体会**　東京　パレスホテル
東京大学工学部都市工学科　伊藤 滋 教授
「東京ウォーターフロントに関して
（首都圏並びに全国に及ぼす効果）」

11.10 **第57回全体会**　京都　京都ブライトンホテル
運輸省 土橋 正義 貨物流通施設課長
「倉庫業の今後の動向について」
（株）フルベール京都　前田 均 代表取締役
「社員にやる気を起こさせるには」

3月　青函トンネル開通
4月　本四架橋の瀬戸大橋（児島～坂出間）開通
◆　運輸省がフレイトビラ構想の実験事業開始
5月　運輸省が国際宅配便の利用航空運賃初認可
7月　北陸高速自動車道が全面開通
9月　リクルート贈賄疑惑発覚
12月　新行政改革推進審議会が物流事業規制緩和を答申
◆　トラック輸送の国内シェア50%超す

### 1989（昭和64～平成元年）

3.24 **第58回全体会**　横浜　ホテル横浜ガーデン

6.14 **第17回総会／第59回全体会**
千葉　シェラトンホテル

8.31 **第60回全体会**　北海道　函館国際ホテル

1月　1月8日、天皇陛下が崩御。元号が「平成」に
4月　消費税導入。キャピタルゲイン課税とインサイダー規制も実施

## 1990 （平成 2）

3.17 **第61回全体会**　名古屋　ホテルナゴヤキャッスル
愛知学院大学法学部　林 董一 教授
「名古屋の商法を語る」

6.22 **第18回総会／第62回全体会**　東京　パレスホテル
スーパーミュージックコーポレーション　高橋 信之 代表取締役
「倉庫業のイメージアップ」

10.6 **第63回全体会**　静岡　日本平ホテル
鈴与倉庫（株）山田 美智子 ホームケアセンター所長
「高齢化社会に向けて」

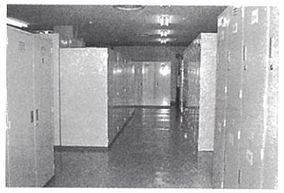
6月　日米構造問題が決着
7月　運輸省が全国6地域をサテライト型物流拠点に選定
10月　東欧諸国民主化で東西ドイツが45年ぶりに統一
12月　物流業界の人手不足が深刻化
◆「貨物自動車運送事業法」と「貨物運送取扱事業法」の物流二法施行
◆大気汚染など環境対応で車両運行規制～モーダルシフトへ

## 1991 （平成 3）

3.8 **第64回全体会**　広島　安芸グランドホテル
聖心館道場　引地 聖荘 館長
「人生と経営に気を活かす」

6.20 **第19回総会／第65回全体会**　東京　パレスホテル

10.25 **第66回全体会**　神戸　三宮国際ホテル
伊藤ハム（株）伊藤 正視 専務取締役
「神戸レジャーワールドについて」


認定制度の実施で、トランクルームサービスの質が問われるようになった

2月　多国籍軍がイラク軍を制圧し、短期間で湾岸戦争終結
3月　トランクルームサービスが伸長。運輸省は利用者保護の目的で“マル適マーク”を導入し、トランクルーム認定制度を公布施行
新宿副都心に超高層の東京都庁完成
4月　牛肉とオレンジの輸入自由化スタート
5月　「地価税法」公布。倉庫用地の非課税が実現
6月　雲仙・普賢岳で大規模火砕流が発生
7月　陸・海・空の主要物流企業と物流団体が結集し「日本物流団体連合会」発足
12月　ソビエト連邦が崩壊。独立国家共同体（CIS）に

## 1992 （平成 4）

3.13 **第67回全体会**　北海道　小樽グランドホテル
（株）キロロ開発公社　富井 哲 常務取締役支配人
「キロロリゾートの開発について」

6.19 **第20回総会／第68回全体会**　東京　ザ・フォーラム
流通情報ネットワーク卸商連盟
宝子山 嘉一 事務局長「流通 EDI と物流情報ネットワーキング」

10.23 **第69回全体会**　松山　東京第一ホテル松山
松山市立子規記念博物館　和田 茂樹 館長
「俳句～子規と松山」

1月　運輸省は、リニアモーター関連技術の物流分野への活用方策を探る
3月　東海道新幹線に「のぞみ」が登場。270km/h で東京・大阪間は２時間半に
◆運輸省は、環境庁・通産省と共同で「NOx 削減法案」をまとめる。将来はメタノール車が中心に
4月　改正商標法が施行され、「サービスマーク」が登録される
6月　PKO 協力法案が衆参本会議で可決
「物流 EDI 研究会」が発足、物流関係の取引情報等の電子データ交換を推進するための標準化について研究する
9月　カンボジア PKO 派遣
◆バブル経済の崩壊

## 1993 （平成 5）

3.25 **第70回全体会**　沖縄　那覇東急ホテル
沖縄県倉庫協会　有村 喬 会長
「沖縄県第三次開発振興計画について」

6.26 **第21回総会／第71回全体会**　東京　ザ・フォーラム
創立 20 周年式典

10.22 **第72回全体会**　岡山　岡山国際ホテル
分科会開催

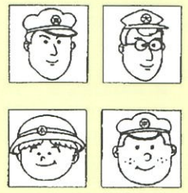
1月　EC 市場統合開始



# 1994～2003

## ●「エイジグループ」で生き残り策を議論

バブル経済が崩壊し、日本は長期化するデフレ不況に突入。物流はメーカーのコスト削減の有力なターゲットとして脚光を浴びるようになりました。メーカー在庫の圧縮は倉庫業の経営にも大きく影響し、倉青協でも倉庫業の「生き残り策」が真剣に議論されるようになりました。直面する課題と向き合い、議論するため,95年には「エイジグループ」が導入されます。“若手”経営者の集まりといえどもメンバーは 20代～40代と年齢幅があり、より年少の会員が発言しにくくなっている状況で、忌憚なく議論しやすい環境をつくるのが目的でした。年齢の高い順に「大学生」「高校生」「中学生」「小学生」とグループ分けし、通年同じテーマで議論するという新しい形の「親睦と勉強」となりました。なお、「エイジグループ」は 2009 年～2011 年に復活することになりました。


エイジグループの小・中・高・大学生のシンボルマーク

## ●創立 25 周年には米国3PL事業を視察

規制緩和の流れで 2002 年には倉庫業が改正され、倉庫業への参入規制が許可制から届け出制になり、物流子会社や運送会社など異業種が倉庫業に本格参入してきました。「サードパーティー・ロジスティクス（3PL）」という言葉が急速に普及したのも、ちょうどこの時期です。言葉の定義には議論がありますが、3PLは荷主の物流を包括的に請け負い、物流を効率化を実現するサービスとして認知され、日本で3PL市場が開けようとしていました。こうした中、倉青協では3PLの先進国である米国のロジスティクスにいちはやく注目し、倉青協の創立 25 周年を記念し、1998 年には米国 3PL視察旅行を行いました。

米国3PL視察風景

## ■全体会・総会の記録

## 1994 （平成 6）

3.11 **第73回全体会**　福岡　ホテルニューオータニ博多
（株）ふくや　川原 正孝 常務取締役
「お祭りと経営」

6.16 **第22回総会／第74回全体会**　東京　パレスホテル
各地区報告（神奈川、福岡、滋賀）

10.13 **第75回全体会**　仙台　仙台国際ホテル
仙台藩伊達家の分家の子孫・瑞鳳殿顧問　伊達篤郎氏
「乱世を生き抜いた政宗」

## 1995 （平成 7）

3.9 **第76回全体会**　水戸　水戸京成ホテル
茨城工業高等専門学校　佐久間 好雄 教授
「水戸の名君二代～光圀と斉昭」

6.16 **第23回総会／第77回全体会**　東京　東京海上ビル新館
三菱総合研究所　牧野 昇 相談役
「変わる経済と新しい経営」

10.13 **第78回全体会**　大垣　大垣フォーラムホテル
分科会開催（エイジグループ）
議題「魅力ある倉庫業を目指して」

## 1996 （平成 8）

3.15 **第79回全体会**　大阪　ホテル関西空港
各地区報告（東京、東海、大阪、中国四国、九州）

6.21 **第24回総会／第80回全体会**　東京　パレスホテル
エッセイスト　阿川 佐和子 氏
「男の魅力」

9.2 **第81回全体会**　岩手　盛岡グランドホテル
分科会開催（エイジグループ）
議題「倉庫会社の生き残り戦略」

## ■一般社会・物流の動き

1月　建設省が標準駐車場条例を改正し、ビル駐車場に荷さばき施設付置を義務化
5月　改正道路交通法が施行。過積載の使用者責任が明確に
6月　自民党が社会党と連携して政権奪回
7月　記録的な猛暑に
9月　関西国際空港が開港

1月　阪神・淡路大震災が発生。神戸港が使用不能に
3月　オウム真理教による地下鉄サリン事件発生
為替レートが急騰し、一時１ドル 79 円台に
11月　日本路線トラック連盟が発足
12月　厚生取引委員会が日本冷蔵倉庫協会に平成４年の保管料値上げで排除命令

3月　規制緩和推進計画改定で「トラック最低保有台数、将来は全国一律５台」を閣議決定
7月　「海の日」が祝日に
10月　外航海運の「国際船舶制度」がスタート
12月　運輸省、運輸業の需給調整規制撤廃を打ち出す
国土審議会が「多軸型国土」開発を答申

## ■全体会・総会の記録　■一般社会・物流の動き

### 1997（平成9）

3.14 **第82回全体会**　大津　大津プリンスホテル
立命館大学経営学部　石崎 祥之　助教授
「近未来の流通システムと倉庫業の生き残り戦略」

6.16 **第25回総会／第83回全体会**　東京　ホテル日航
ジャーナリスト　野中 ともよ 氏
「二十一世紀、あなたの時代」

10.24 **第84回全体会**　唐津　シーサイドホテル東館
松浦文化連盟　中里 紀元 会長
「大陸と海洋文化の十字路～唐津」

1月　ロシアのタンカー「ナホトカ」が日本海で原油流出事故を起こす
4月　消費税５％に引き上げ
週40時間労働、トラック運送業でも適用
「総合物流施策大綱」を閣議決定
5月　香港が中国に返還
11月　拓銀、山一證券など金融機関の破たんが相次ぐ
12月　地球温暖化防止会議京都会議（ＣＯＰ３）で先進国に排ガス削減目標を設定
東京湾アクアライン開通
◆　環境問題の顕在化により物流の効率化が求められる

### 1998（平成10）

3.5 **第85回全体会**　奈良　ホテルフジタ奈良
分科会開催（エイジグループ）
議題「倉庫業が物流業界で生き残って行く為には」

6.15 **第26回総会／第86回全体会**　東京　芝パークホテル
野村総合研究所　主任エコノミスト　植草 一秀 氏
「日本経済の現状と展望～金利・為替・株価はどう動く～」

7.5 **創立25周年記念海外研修**
米国3PL関連事業視察
7月5日～7月13日（9日間）

10.29 **第87回全体会**　仙台　三井アーバンホテル仙台
25周年記念事業米国3PL関連事業視察報告

2月　長野冬季オリンピックが開幕
4月　ＩＳＯ40 フィートコンテナのフル積載走行が可能に
6月　「中央省庁改革基本法」が成立し、「国土交通省」が２００１年に発足
内航海運の船腹調整制度を廃止し、暫定措置事業に移行
9月　34年ぶりの新規定期航空会社、スカイマークエアラインが羽田～福岡就航
10月　長銀が国有化、日債銀も

### 1999（平成11）

3.1 **第88回全体会**　神戸　ホテルオークラ神戸
神戸市港湾整備局参事　小柴 善博 氏
「神戸港及び神戸の復興状況」

6.18 **第27回総会／第89回全体会**　東京　芝パークホテル
株式会社料理王国社　代表取締役社長　浅野 裕紀 氏
「グルメブームの裏表」

10.21 **第90回全体会**　横浜　横浜ランドマークタワー
倉青協HP準備委員会
「パソコンによる会員名簿の管理及びホームページの開設」

4月　商船三井とナビックスラインが合併し、外航は大手３社体制に
8月　東京都が「ディーゼル車ＮＯ作戦」を開始
10月　自自公連立政権が発足
11月　日立物流と福山通運が戦略的アライアンスを発表
12月　改正労働基準法
（女性保護規定廃止、裁量労働拡大）

### 2000（平成12）

3.10 **第91回全体会**　松山　松山全日空ホテル
公認会計士・税理士　加納 敏孝 氏
「相続」と「相続税」について（第１回目）

6.14 **第28回総会／第92回全体会**　東京　芝パークホテル
公認会計士・税理士　加納 敏孝 氏
「相続」と「相続税」について（第２回目）

9.14 **第93回全体会**　札幌　アートホテルズ札幌
公認会計士・税理士　加納 敏孝 氏
「相続」と「相続税」について（第３回目）

1月　尼崎公害訴訟地裁判決など自動車公害訴訟初の排ガス差し止め判決
2月　改正航空法施行、国内航空の需給調整規制を廃止
4月　小渕恵三首相が死去、森喜朗内閣が発足
7月　九州・沖縄サミット開催
10月　改正海上運送法施行、カーフェリーなどの需給調整廃止。貨物フェリー制度も撤廃
11月　改正港湾運送事業法施行により９大港で需給調整規制を廃止
◆　物流、運輸業の規制緩和が進展

### 2001（平成13）

3.14 **第94回全体会**　大宮　パレスホテル大宮
公認会計士・税理士　加納 敏孝 氏
「相続」と「相続税」について（第４回目）

6.13 **第29回総会／第95回全体会**　東京　芝パークホテル
公認会計士・税理士　加納 敏孝 氏
「相続」と「相続税」について（第５回目）

9.13 **第96回全体会**　青森　ホテル青森
分科会開催
「議題」１班　賃金体系を考えるの巻
２班　今後の倉庫業界の進むべき道
３班　本業以外の事業について大いに語る

1月　省庁再編で国土交通省が発足
4月　小泉純一郎内閣が発足
6月　自動車ＮＯｘ法改正
7月　新「総合物流施策大綱」が閣議決定
9月　米国同時多発テロが発生
10月　東京都が「環境確保条例」を施行
◆　物流のセキュリティー意識が高まる

### 2002（平成14）

3.14 **第97回全体会**　名古屋　名古屋観光ホテル
分科会開催
「議題」１班　本業から派生する関連事業
２班　これからの雇用体系について
３班　システム活用の事例

6.12 **第30回総会／第98回全体会**　東京　芝パークホテル
分科会開催
「議題」１班　ここ数年のデフレによる荷主企業からの物流費削減要請に我社はいかに対応してきて、これからどう対応するのか？
２班　倉庫業はサービス業である！？
３班　わたしが社長になった時

10.16 **第99回全体会**　広島　ワシントンホテルプラザ
分科会開催
「議題」倉庫業規制緩和について

3月　自民党トラック議員連盟が発足
4月　改正倉庫業法が施行
国土交通省が「次世代内航海運ビジョン」策定
6月　日韓共催によるサッカーＷ杯が開催
9月　小泉首相が北朝鮮を訪問し、日朝首脳会議が実現
10月　日本航空と日本エアシステムが経営統合
◆　外資系物流ファンドが本格進出

改正倉庫業法により倉庫業は許可制から登録制に

### 2003（平成15）

3.13 **第100回記念全体会**　福岡　ホテルオークラ福岡
川崎陸送（株）代表取締役　樋口 恵一 氏
「環境規制が倉庫業へもたらす影響について」
釜山港見学（3月14日～3月15日）

6.11 **第31回総会／第101回全体会**　東京　芝パークホテル
30周年記念式典開催

9.18 **第102回全体会**　福島　ホテルはまつ
アサヒビール福島工場と山口倉庫・コメ定温倉庫を見学

3月　イラク戦争が勃発
4月　新型肺炎ＳＡＲＳが大流行
日本郵政公社が発足
改正物流二法、改正鉄道事業法が施行
5月　宮城県沖地震が発生
6月　物流取引も対象に加えた改正下請法が成立
9月　スピードリミッターの装着が義務化
10月　首都圏自治体によるディーゼル車規制スタート

ディーゼル車規制対応で
トラック業者はコスト増に

## ●社員も含めた「企業交流会」がスタート

2000年代に入ると、外資系物流不動産ファンド・デベロッパーが日本に進出し、大型物流施設の開発、投資が加速し、倉庫の供給過剰が倉庫会社の経営に大きなインパクトを与えるようになりました。また、05年に制定された、物流効率化と環境負荷低減を目的とした物流総合効率化法により、保管・荷役を中心としていた倉庫業に業容の変化が求められることとなります。倉青協の活動も親睦はもちろんですが、「会社の経営や実務に役立つ」ことが期待されるようになりました。もともと倉青協には他社の倉庫を見学し、お互いの長所を学ぶ土壌があり、それが発展して会員の社員も含めた「企業交流会」がスタートしました。「企業交流会」を通じて、倉青協のネットワークはより厚く、強固なものとなりました。

社員も参加する「企業交流会」

## ●東日本大震災では組織的な支援

2008年の世界的な金融危機、いわゆるリーマン・ショックは日本経済に大きな影響を及ぼし、倉庫業には輸出入貨物の取り扱いの激減、国内貨物の荷動きの低迷をもたらしました。ようやく景気が回復してきた矢先に起きたのが、東北を震源とする東日本大震災です。阪神淡路大震災以来の大災害で、より広域にわたって会員が被災しました。倉青協は東日本大震災発生直後から、救援物資の供給、応援の作業員を派遣する"人的支援"など組織的な活動を行いました。創立以来の協業の姿勢、社員も含めたメンバー同士の信頼が災害時のネットワークとして生かされたのです。倉青協では社会インフラとしての倉庫業の重要性を再認識し、今後想定される大災害に備え、ハード、ソフトの両面で災害に強いロジスティクスを担っていこうとしています。

救援物資を積んで被災地に向かう

## ■全体会・総会の記録

### 2004（平成16）

2.6 **常任幹事会＆企業交流会トライアル** 東京　芝パークホテル
国土交通省 総合政策局 貨物流通施設課長　濱 勝俊 氏
「16年度物流施設関係施策」をテーマに講演

3.11 **第103回全体会** 大阪　大阪全日空ホテル
国土交通省総合政策局 貨物流通施設課長　濱 勝俊 氏
「平成16年度の予算・税制を通じて見た
物流業界の最近の動きについて」講演
翌日カネボウ薬品関西配送センターを見学

7.6 **第32回総会／第104回全体会** 東京　芝パークホテル
倉青協会員が100人突破
国土交通省 総合政策局 貨物流通施設課長　濱 勝俊氏
日本における３ＰＬビジネス、グリーン物流をテーマに講演
第１回企業交流会がスタートし、会員とその企業の社員、
国土交通省からのゲストを含め100人以上が参加

10.19 **第105回全体会** 香川　全日空ホテルクレメント高松
国土交通省 総合政策局貨物流通施設課長　濱 勝俊 氏
「３ＰＬ人材育成研修の進ちょく状況について」講演
分科会開催
「議題」１班　ホームページのコンテンツおよび今後の運営について
２班　顧客との契約形態について
３班　倉庫の証券化について考える

11.26 **第２回企業交流会** 東京　芝パークホテル
１日目は国土交通省総合政策局の濱勝俊・貨物流通施設課長が
「３ＰＬ研修の目的」について説明
グループ討議を行い、自主研修を実施
２日目はグループの自主研修とプレゼンテーション

## ■一般社会・物流の動き

4月　成田空港が民営化
7月　国土交通省がスーパー中枢港湾を指定
8月　アテネオリンピック開幕
9月　グリーン物流パートナーシップ会議を発足
10月　大リーガー「イチロー」が最多安打記録を達成
新潟県中越地震が発生

政府はスーパー中枢港湾への「選択と集中」を打ち出したが…





### 2005（平成17）

2.3 **常任幹事会** 東京　芝パークホテル
物流ニッポン新聞社　専務　北原 秀紀 氏
「荷主と物流事業者の今後の動向」をテーマに講演
輸送経済新聞社 社長　森島 泰彦 氏
「日本３ＰＬ（サードパーティー・ロジスティクス）はどこへ行く」
をテーマに講演

4.14 **第106回全体会／第３回企業交流会**
名古屋　東京第一ホテル錦
愛知万博（愛・地球博）見学
新東通信㈱　常務取締役（愛知万博事務局）坂田 稔 氏
「愛知万博」をテーマに講演
中京大学大学院教授（元東海総合研究所社長）水谷 研治 氏
「名古屋経済」をテーマに講演

7.8 **第33回総会／第107回全体会／第４回企業交流会**
東京　芝パークホテル
鈴木 篤 氏（太成倉庫）、齋藤 宏明 氏（ひかり倉庫）がそれぞれ
「物流不動産ファンドの現状について」
「企業価値と経営」をテーマに講演

10.18 **第108回全体会** 石川　片山津温泉　あたかや佳水郷
明祥（石川県金沢市）副社長　重松 豊 氏
センコー東日本営業本部ロジスティック営業部
中部システム担当課長 上田 良範 氏
「物流アウトソーシング（業務委託）」について講演

2月　中部国際空港が開港
3月　愛知万博が開幕
4月　ペイオフ完全実施
ＪＲ福知山線脱線事故が発生
改正内航海運業法が施行
9月　郵政選挙で自民党圧勝
燃油価格の高騰で国交相が経済界トップに協力要請
10月　道路公団が民営化
物流総合効率化法が施行
11月　耐震強度偽装事件が問題化
総合物流施策大綱（～09年）が閣議決定
◆　高騰する軽油価格への対応が本格化

### 2006（平成18）

1.27 **常任幹事会** 東京　芝パークホテル
国土交通省 総合政策局 貨物流通施設課課長　山口 裕視 氏
課長補佐　井出 徳一郎 氏
課長補佐　橋爪 栄 氏
「総合効率化計画の認定事例と地球環境保全に関する施策」
をテーマに講演

2.24 **第５回企業交流会**
香川県坂出市の高松臨港倉庫（香川）物流センターで開催

3.23 **第109回全体会** 熱海　ホテルニューアカオ
エッセイスト　国際ラリースト　山村レイコ氏
「この地球に生きるということ　夢と勇気と好奇心」
をテーマに講演

6.7 **第34回総会／第110回全体会** 東京　芝パークホテル
ジャーナリスト　三神 万里子 氏
「システム思考による"市場創出型"資産活用を考える」
をテーマに講演

**第６回企業交流会全国大会**
阪南倉庫　堀畑 浩重 氏
「倉庫現場の生産性の向上」をテーマに講演

8.7 **第７回企業交流会** 仙台　ホテルモントレ仙台
白石商工会議所の佐藤孝一名誉会頭が「海軍精神と企業」を
テーマに講演。「実勢取扱料金の実態と各社の対応」について
グループディスカッション

10.26 **第111回全体会** 秋田　秋田ビューホテル
日本アイ・ビー・エム株式会社 顧問　堀田 一芙 氏
「ＩＢＭで学んだこと、今中堅企業の経営に参加して学びつつ
あること」をテーマに講演

2月　イタリア・トリノで冬期オリンピックが開幕
3月　輸出者向けにAEO制度がスタート
4月　改正省エネ法が施行
6月　第１回日中韓物流大臣会合が開催
12月　フセイン元イラク大統領に死刑執行

AEO制度はのちに物流事業者にも適用を拡大

## ■全体会・総会の記録

## ■一般社会・物流の動き

### 2007 （平成 19）

1.26 **常任幹事会** 名古屋 東京第一ホテル錦
トヨタテクノミュージアム産業技術記念館の見学会
日本倉庫経営者倶楽部 会長 井上 忠利 氏
「倉青協のおかげで」をテーマに講演
国土交通省 総合政策局 貨物流通施設課長 河野 春彦 氏
「倉庫業を取り巻く経済状況と新たな行政展開」について講演

2.22 **第８回企業交流会**
「倉庫・物流センターの運営管理の実際」がテーマ、
阪南倉庫の倉庫を見学

3.28 **第112回全体会** 別府 ホテル白菊
大成倉庫の物流センターを見学
国土交通省総合政策局 貨物流通施設課長 河野 春彦 氏
「倉庫業を取り巻く経済状況と新たな行政展開」をテーマに講演

6.13 **第35回総会／第113回全体会** 東京 芝パークホテル
元セ・リーグ審判員 平光 清 氏
「勝負の世界に生きて 審判を通して見た勝負の世界」
をテーマに講演

9.19 **第 114 回全体会** 北海道 札幌プリンスホテル 国際館パミール
札幌ドームの見学会
国土交通省 政策統括官付参事官（物流施設）河野 春彦 氏
「倉庫業を取り巻く最近の状況と取り組み」をテーマに講演
**第９回企業交流会（18 日）** 札幌
「企業交流会とは」をテーマにグループ討論

12.14 **第 10 回企業交流会** 福岡
一人一問で全員参加をテーマに実施

1月 防衛省が発足
6月 改正道路交通法が施行。中型免許制度が創設
7月 参院選で自民党が大敗し「ねじれ国会」に
10月 郵政民営化がスタート
「特定保税承認制度」がスタート

中型免許制度でドライバー不足も懸念

郵政民営化の動きに物流業界も警戒

### 2008 （平成 20）

1.29 **常任幹事会** 東京 パレスホテル
国土交通省との意見交換会

3.6 **第115回全体会** 山梨 アーバンヴィラ古名屋ホテル
国土交通省 政策統括官付参事官（物流施設）河野 春彦 氏
「最近の倉庫行政の展開について」をテーマに講演
サントリー白州工場および丸市倉庫の倉庫見学

5.23 **第 11 回企業交流会** 横浜
ダイワコーポレーションとコバヤシエンタープライズの
横浜新山下の倉庫を見学

6.11 **第 36 回総会／第 116 回全体会** 東京 芝パークホテル
勝沼醸造株式会社 代表取締役 有賀 雄二 氏
「世界に通ずる甲州ワイン」をテーマに講演

7.6~13 **創立３５周年記念海外視察**
米国 ロスアンゼルス・サンディゴ

11.6 **第117回全体会** 高知 高知新阪急ホテル
前高知県知事 橋本 大二郎 氏
「知事にできること、知事にできないこと」をテーマに講演
35 周年記念海外視察の報告会

12.12 **第 12 回企業交流会** 名古屋
福玉精穀倉庫を見学

1月 中国製ギョーザ食中毒事件が発生
3月 イージス艦衝突事故が発生
4月 軽油引取税など道路特定財源の暫定税率が一時失効

軽油価格の高騰がトラック事業者の経営を圧迫

5月 「トラック輸送適正取引推進パートナーシップ会議」が初会合
7月 日本各地でゲリラ豪雨が発生
8月 北京オリンピック開幕
9月 「リーマン・ショック」で世界経済が低迷
高速道路の夜間・休日割引がスタート
◆ 物流不動産ファンドの開発がピークに

### 2009 （平成 21）

1.27 **常任幹事会** 東京 パレスホテル
国土交通省との意見交換会

3.5 **第 118 回全体会** つくば ホテルグランド東雲
国土交通省 政策統括官付参事官（物流施設） 田中 照久 氏
「倉庫を取り巻く状況について」講演
JAXA「筑波宇宙センター」の見学会

6.10 **第 37 回総会／第 119回全体会** 東京 芝パークホテル
日本政策投資銀行 鍋山 徹 氏
「世界経済の行方と日本の産業展望」をテーマに講演

11.12 **第120回全体会** 富山 ANA クラウンプラザホテル富山
エイジグループ分科会・発表会

4月 新型インフルエンザが猛威
6月 静岡空港が開港
7月 総合物流施策大綱（～13年）が閣議決定
8月 衆院選で民主党が圧勝
9月 民主党が鳩山由紀夫内閣を発足し、政権交代
10月 国土交通省が成長戦略会議を設置
成田空港Ｂ滑走路が延伸され供用開始
11月 行政刷新会議による「事業仕分け」スタート

### 2010 （平成 22）

1.28 **常任幹事会** 東京 芝パークホテル
国土交通省との意見交換会

3.11 **第121回全体会** 静岡 ホテルセンチュリー静岡
エイジグループ別分科会

6.9 **第 38 回総会／第 122回全体会** 東京 芝パークホテル
株式会社リコー 販売事業本部審議役 田村 均 氏
「健全な組織は価値観の経営を目指す」をテーマに講演

10.28 **第123回全体会** 京都 京都全日空ホテル
エイジグループ分科会

1月 日本航空が会社更生法の適用を申請
2月 カナダ・バンクーバーで冬期オリンピックが開幕
5月 上海万博開幕
6月 高速道路の無料化実験がスタート
7月 参院選で民主党が大敗し、「ねじれ国会」に
8月 国土交通省が国際コンテナ戦略港湾を指定

京浜港・阪神港は国際ハブポートとしての機能回復へ

9月 尖閣諸島沖で中国漁船と海保巡視船が衝突
10月 羽田空港に新国際線ターミナルが開業

### 2011 （平成 23）

1.25 **常任幹事会** 東京 芝パークホテル
国土交通省との意見交換会

3.10 **第124回全体会** 山口 下関グランドホテル
エイジグループ分科会別発表会

6.8 **第 39 回総会／第 125回全体会** 東京 芝パークホテル
財務省関税局との意見交換会

10.13 **第126回全体会** 佐賀 唐津シーサイドホテル
ブルーム・松浦通運の見学会

8.26 **第１回企業交流会** 東京
オーティーエス本社、瑞江センター、臨海センターを見学
「サービスを特化した物流とは？～差別化から独自化へ～」がテーマ

3月 東日本大震災が発生
福島第一原発事故で甚大な被害が広がる
東日本大震災でサプライチェーンが寸断
九州新幹線が全線開通
4月 関西国際空港と伊丹空港の経営統合が決定
6月 ドイツのサッカー女子W杯で「なでしこジャパン」が初優勝
震災復興で高速料金の無料化がスタート
7月 各地の原発停止を受け電力使用制限を発令
10月 タイの日系企業が大規模な洪水被害に
国土交通省が日本海側拠点港を選定
11月 野田首相がＴＰＰ交渉参加を正式表明

## ■全体会・総会の記録

## ■一般社会・物流の動き

### 2012（平成24）

1.30 **常任幹事会**　東京　芝パークホテル
NPO法人災害支援機構　WE CAN事務局長　秋元 義彦 氏
民間による支援物資の備蓄の取り組みの紹介
国土交通省による「災害に強い物流システムの構築」についての説明
国土交通省との意見交換会

3.8 **第127回全体会**　神戸　神戸ポートピアホテル
「人と防災未来センター」の見学会

6.6 **第40回総会／第128回全体会**
東京　ホテルＪＡＬシティ田町東京
ＳＢＳホールディングス株式会社　代表取締役　鎌田 正彦 氏
「創業25周年を振り返って」をテーマに講演

10.18 **第129回全体会**　札幌　京王プラザホテル札幌
「最先端の冷凍冷蔵機能を備えた倉庫」の見学会

4.27 **第2回企業交流会**　三重
生川倉庫本社　亀山物流センター、石薬師営業所を見学
「新規顧客獲得のノウハウとそれを支える現場力」がテーマ

9.7 **第3回企業交流会**　滋賀
日に新た館本社を見学
「失敗から学ぶ新規物流提案事例」がテーマ

2月　国土交通省が「災害に強い物流システム」の集約拠点として民間施設をリストアップ

7月　ロンドンオリンピック開幕
再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタート
尖閣諸島、竹島の領土問題で外交不安が顕在化
◆ 買取制度を受け太陽光発電に倉庫会社が注目

倉庫の屋根を利用した太陽光発電

12月　第46回衆議院議員選挙が行われる
自民大勝294議席を獲得
投票率は59.32%と戦後最低に
中央自動車道の笹子トンネルで天井板崩落事故

### 2013（平成25）

1.29 **常任幹事会**　東京　芝パークホテル
国土交通省との意見交換会

3.21 **第130回全体会**　仙台　ホテルモントレ仙台
国土交通省との意見交換会
東日本大震災で被災した会員企業3社
（協和運輸倉庫、センコン物流、白石倉庫）から報告会
被災地域の視察（仙台港～陸前高田～気仙沼、石巻）

2.15 **第4回企業交流会**　川崎
シーオス川崎事業所を見学
「ネット通販物流のこれから」がテーマ

6.11 **第41回総会／第131回全体会**　東京　芝パークホテル
40周年記念式典開催

1月　2年7ヶ月ぶりに1ドル90円台後半に

2月　「アベノミクス」効果で円安と株価上昇へ

円安により輸出回復の兆しも

3月　安倍晋三首相がTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉への参加を表明
新しい総合物流施策大綱の策定に向けた有識者検討委員会の提言骨子案まとまる

4月　淡路島地震が発生
米　ボストン・マラソンで爆破テロ事件





# 2013年～未来に向けて

## ●倉青協の「きずな」を次の世代へ

2013年5月に倉青協は創立40周年を迎えました。40周年に先立ち、3月21日には第130回全体会を仙台で開催しました。仙台大会は震災から2年が経った東北の復旧・復興を見届けようと、地方大会としては異例の90人近い大人数が参加しました。東日本大震災以降、被災した会員の支援を通じて実証された倉青協のネットワークと「きずな」はこの2年間でさらに強く、太くなっています。こうした倉青協の魅力に惹きつけられた新たな会員を迎え、さらに中身の濃い活動を実現していきます。

## ●会員の思いのせ、東北の10社に植樹を

須賀川東部運送にて吉田雅弘社長（右）と醍醐会長

5月27、28、29の3日間、醍醐正明会長は東北の会員10社を訪問し、東日本大震災からの復興を願って植樹を行いました。福島県の東日本倉庫、山口倉庫、須賀川東部運送、マルコ物流、宮城県の白石倉庫、センコン物流、協和運輸倉庫、大昇物流、岩手県の東磐運送の各拠点に、春の便りを届けるシダレザクラ、コブシ、エドヒガンの苗木を植え、宮城県の二興倉庫には植樹の代わりに記念品を贈呈。東日本倉庫の馬場俊彰社長と同社の社員も同行しました。東北の本格的な復興はこれからですが、東北の会員が苗木の成長と春の訪れを心待ちにし、そして、全国の会員は春が来るたびに「3・11」を思い起こそう――。植樹にはこうした思いが込められています。植樹の後、ある東北の会員からは「花が満開になる頃には社員と花見を楽しみたいね」と笑顔がこぼれました。

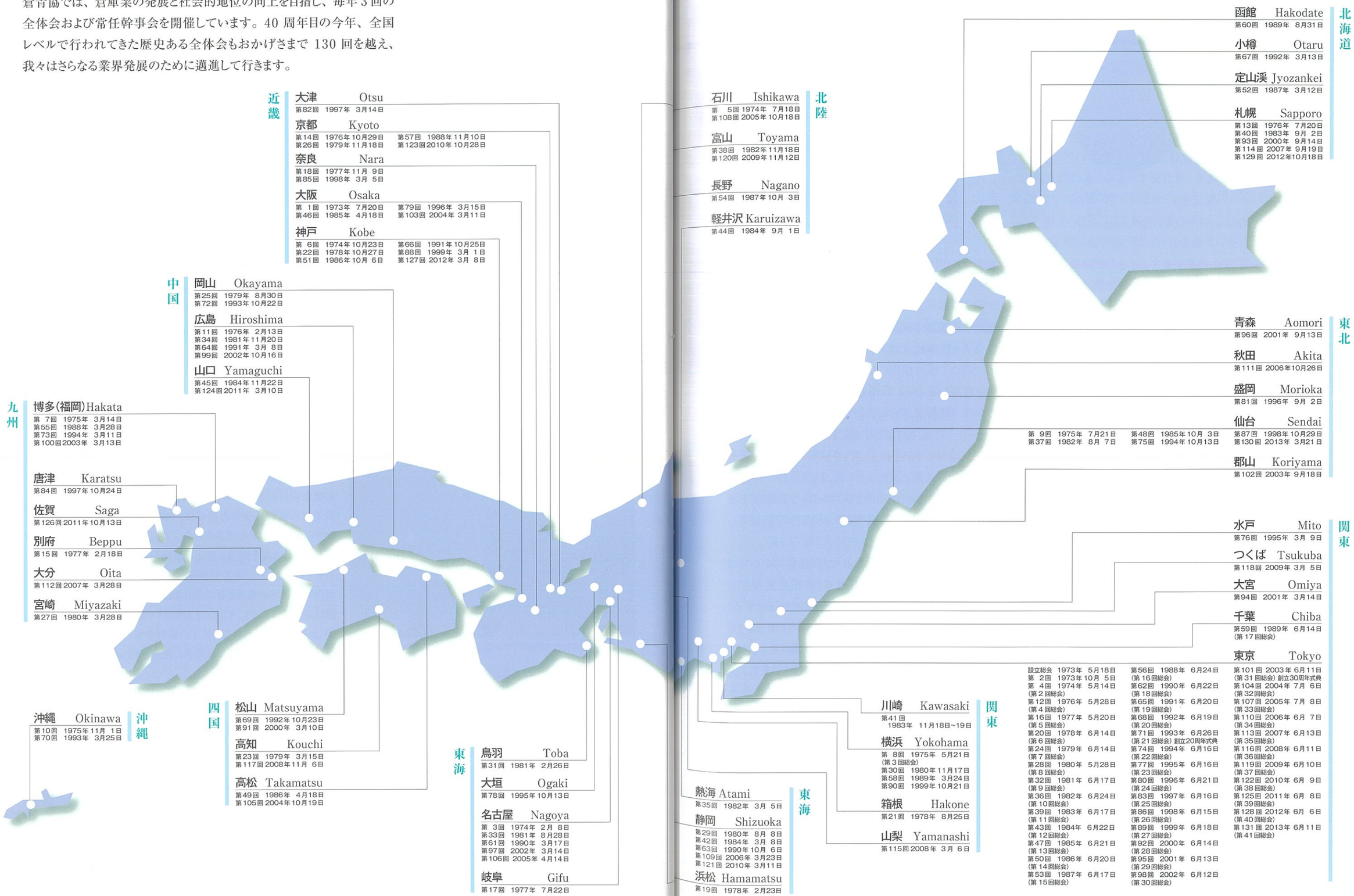
コブシの花言葉は「友情」、「歓迎」、「信頼」

東日本倉庫で社員の皆さんの笑顔に囲まれて

# 総会・全体会 全国開催地 map

1973～2013

倉青協では、倉庫業の発展と社会的地位の向上を目指し、毎年３回の全体会および常任幹事会を開催しています。40 周年目の今年、全国レベルで行われてきた歴史ある全体会もおかげさまで 130 回を越え、我々はさらなる業界発展のために邁進して行きます。



40周年記念
座談会
Part.1

# ヒトを育て、会社を育てる組織 ―― それが倉青協だ!

第6代会長
西尾 忠明氏
株式会社西尾倉庫
代表取締役社長

第7代会長
小泉 駿一氏
第一倉庫株式会社
代表取締役会長

第8代会長
山本 信彦氏
小樽倉庫株式会社
代表取締役社長

第9代会長
鈴木 威雄氏
株式会社富士ロジテック
代表取締役会長

第11代会長
大竹 広明氏
三信倉庫株式会社
代表取締役会長

醍醐（司会）　2013年5月に倉青協は創立40周年を迎えます。現在、現役会員はチャーターメンバー（創立時の会員）のご子息や孫の代になって来ています。現会員である私たちは設立当初からの歴史をすべて知っているわけではありません。40年の節目を迎えるにあたって歴代の会長にお集まりいただき、倉青協の歴史を振り返りたいと思います。皆さんが会長時代に力を入れた活動やエピソードをご紹介ください。

## 全体会を“経営者倶楽部”と合同で開催

西尾　私はチャーターメンバーですが、43歳の時に会長になりました。一番脂が乗りきった時期を倉青協のためにささげたわけです。私の前の会長の清水さん（清水修一郎氏・中京倉庫）は、TQC発表会など非常に熱心に活動されていました。私の代にも、第2回TQC発表会を開催しました。私はあまり頑張りすぎず、「踊り場」のような会長だった思います。

思い出深い出来事と言えば、1985年10月倉青協の全体会を日本倉庫経営者倶楽部（経営者倶楽部）と合同で開催したことです。倉青協は第48回、経営者倶楽部が第22回の全体会でした。合同での開催は初めてでしたし、それ以降もまだ実現していません。どちらも会員数が多い時期で、大盛況な会になったと記憶しています。

「倉青協」設立当時

醍醐　国際交流では、国際倉庫協会連盟の年次大会にも参加しましたね。

西尾　私は10数年連続で参加し、楽しい思い出ができました。

## 会長として相談には乗るが基本はすべてお任せ

小泉　私は1987年6月、会長に就任しました。「倉庫業の明日をめざして」を基本テーマとし、皆の力を結集しようとスタートしました。また、倉青協のシンボルマーク「YWマーク」や倉庫業を表すニックネーム「ビッグポケット」を作ろうと提案しました。

会長として方針を示すが、運営については委員会や委員長に任せる「お任せ主義」で、「相談には乗るが、基本はすべてお任せする。だから全力投球してほしい」というのが私の方針でした。それが功を奏したのか、たくさんの良い企画を出してくれたと感謝しています。

会員増強も大きなテーマでした。私が会長を引き受けた時は70人だったのが、その年に8人、翌年には7人増えて、一定の成果を出せたと思います。ただ、当時から少数精鋭を意識していました。あまりにも肌合いの違う人が倉青協に入ると、運営上、問題が出てくるということを危惧したからです。やみくもに頭数を増やそうとするのではなく、会員を増やす際の慎重さも必要だと思います。

我々の時代には、全体会を盛大に楽しんだものです。私の考え方では、勉強は自分の意思でするものです。勉強会を企画することも大事ですが、こちらでお膳立てして「皆さん、勉強しに来てください」というのは少し違うのではないか!?と。 むしろ、「勉強したいが、どうしたらよいか分からない」といった時に、相談できる仲間を作るのが倉青協という場ではないでしょうか。

ちなみに、50歳で倉青協を卒業する方々に、「倉青協とは縁を切って、経営者倶楽部に進んでください」という意味を込めて、「はさみ」を贈呈するアイデアは私が考えたものです。OBになったら、倉青協のことは現役に任せてほしい――という気持ちもありました。

醍醐　「はさみ」は小泉さんの発案だったのですね。その慣習は今でも続いています。ところで「YWマーク（Young Warehouse）」や「ビッグポケット」を作った狙いは何だったのでしょうか。

西尾　当時、「ゼネコン」、「マスコミ」みたいに業界や業種を表すニックネームが流行（はや）りだしたので、倉庫業にもニックネームを付けようと考えたのです。残念ながら、「ビッグポケット」はあまり流行らなかったのですが。

小泉　「YWマーク」は便せんや封筒にも印刷しました。取引先からも「このマークは何ですか?」と尋ねられたこともありました。

醍醐　「YWマーク」は継承し、全体会でも毎回ステージ上に掲示しています。

## 倉庫業のイメージを上げるため「元気を出そう!!」

山本　私は1989年に会長になりました。私は根っからの倉庫マンではなく、中途採用です。父が亡くなり、83年のある日突然、社長になったのです。倉庫業について、まだ右も左もチンプンカンプンという時に入会しました。つまり、倉庫業になったのとほぼ同時に倉青協に入った形です。

倉庫業の経営者は非常に上品で、紳士的で立派な方が多いのですが、大変おとなしいという印象を持ちました。経営者の子供たちの会である倉青協については、幼いのは仕方ないにしても、やや若者らしい元気さが足りないと感じました。清水さん（清水修一郎氏・中京倉庫）のように元気いっぱいのリーダーがいる一方、若い人があまり発言しないので、倉庫業

40周年記念
座談会
Part.1

（山本）　のイメージを上げるためにも、もっと元気を出そう――ということを声高に打ち出したのです。

倉庫というと「暗い」とか「汚い」というイメージを持たれることもあるけど、倉庫業に携わる人たち自らが、まず元気を出し、明るいイメージを描いていこうではないかとPRに努めました。全体会でも、全員が発言できるような運営を心掛けました。

倉庫業とひとくくりにしても、各社で仕事の内容が様々です。私は、「倉青協は異業種交流」だと20周年記念誌に書きました。「倉庫業界は、各社で仕事に対する考え方が異なり、非常におもしろい。倉庫業が画一的な商売ではないからこそ、皆が知恵を絞っていろいろなことができるのではないか」と。倉庫業のイメージを変えるべきだと力説しました。

ところで国際倉庫協会連盟への参加でも、思い出深いことがあります。1988年米テキサス州のダラスで大きな配送センター（フレミング社）を視察しましたが、テキサス州だけでも日本より広いというのに、たった1ヵ所の配送センターから周囲の3つの州に配送していたことに驚きました。建物自体はそれほど日本と変わらないのですが、コンピューターシステムが非常に進んでいました。

すでに米国では単品管理を実施していたことも印象的でした。当時から米国の物流は日本の10年先を進んでいると言われていましたが、それを目の当たりにしました。今でも倉庫業の経営者としてひとつの糧になっています。

## 考えの違う人たちにも参加してもらおう

鈴木　実を言うと私は、倉青協について最初は少々バカにしていました。会長になる前はそれほど積極的に活動していませんでしたし、「会長になったらマズイな」と思っていたので、副会長にもならないようにしてきました。ある日突然、こちらの3人（西尾氏、小泉氏、山本氏）から「会長になってほしい」と言われて、ともかく引き受けることになったのです。

実際に会長になると、倉青協は一定規模の組織ですし、「仲間を集めている以上は、会に参加してある程度収穫がなくてはならない」と思いました。かなり一生懸命、勉強会の企画・運営に取り組みましたね。

当社のグループ企業の「流通工学研究所」では、定期的に勉強会を開催しているのですが、当時の倉青協のメンバーが出席してくれています。私自身、「いくつになっても勉強することはたくさんある」と感じていますが、倉青協という組織で勉強する機会を持てたことは非常に良かったと思います。

会員の増強についてですが、同じ考え方の人ばかりが集まると、同じDNAの人が多くなりすぎると思うのです。いろいろな考え方を持つ人たちにも倉青協に参加してもらおうと努力しました。「仲間内だけの会」にはしたくなかったのです。

当時の運輸省（現国土交通省）とも、施策をめぐって随分、喧嘩しましたね。

小泉　鈴木さんの言うことが「正論」であっても、我々は大人なのだから利口!? に立ち回らないと（笑）。

鈴木　倉青協は若手経営者の会なのですから、「大人」でなくていいでしょう（笑）。



## 次期会長を承諾してもらい肩の荷が下りた

大竹　私は28歳で入会しました。50歳で定年と聞いて、50歳近い者が果たして青年だろうかとも思いましたが…。上の先輩方々とは20歳以上歳の差があり、話が通じないなぁと感じました。先ほど、山本さんが「若い人が発言しない」とおっしゃっていましたが、それは当然です。そこで、私は「エイジグループ」を作りました。世代ごとに「小学生」、「中学生」、「高校生」、「大学生」と4つのグループに分け、同じ年代のメンバーが同じテーマについて議論・意見交換するというものです。これによって、最年少の「小学生」グループの自主的な動きが活発化してきました。それぞれの「エイジグループ」のリーダーには副会長になってもらいました。その当時、「小学生」グループでのリーダーだったのが浅野さん（浅野邦彦氏・浅野運輸倉庫）です。

世代別グループのシンボルマーク

醍醐　私は28歳で入会し、「小学生」グループの下級生でしたので、たしかに50歳に近い方とは距離を感じました。いまは自分が逆の立場にあるわけですが。

大竹　それから、事務局に女性社員を登用しました。全体会の出席率向上や、さらには会員の増強につながるという確信があったからです。実際に評判も良かったです。

井上裕子さん
初代女性事務局員として登用

私は眞鍋さん（眞鍋博俊氏・博運社）に会長を引き継ぎました。次期会長を選ぶのに歴代会長がどれだけ苦労されたか、あるいは苦労されなかったかは分かりませんが、私の場合、最初は眞鍋さんに固辞されました。次期会長を決めるエネルギーは会長の仕事の4割程度に相当する大仕事だと思います。2年の任期が満了する総会5ヶ月前の1月に次期会長を眞鍋さんに承諾してもらい、肩の荷が下りてほっとしたことを強く憶えています。

山本　私の後は鈴木さんが会長になりましたが、西尾さんと小泉さんの3人で「次はタケオだ」と決めていました。倉青協の会長になると、会員の言うことに耳を傾けなければならない苦労もあるし、それは鈴木さんにとっても良い勉強になるだろうと（笑）。

## 倉青協に入ってそれぞれが成長していく

鈴木　会長のお話をいただいた時は本当に驚きました。3人が束になって私を熱心に口説いてくれたのです。ちょうど当社が、「鈴与倉庫」から「富士ロジテック」に社名変更した時期でした。倉青協の会長という仕事を引き受けていなければ、その当時の当社を取り巻く「荒波」にのみ込まれてしまう可能性もあったと思います。会長として仲間をまとめ、会長というポジションで運輸省と話ができる――。

活動を通じて、富士ロジテックという会社が業界や、監督官庁にも認知してもらえたと思っています。今も倉青協のメンバーには、当社だけではできない仕事をお願いすることがあります。倉青協の会長に推していただいたことは、自分にとっても、会社にとってもありがたいことだったと感じています。

山本　倉青協に入ったメンバーはそれぞれが成長していきます。会長もひとりの会員として、会長職を経験することによって成長できるのだと思います。

醍醐　先輩から教えてもらったことや倉青協で学んだことで、とくに印象に残っていることはありますか。

40周年記念
座談会
Part.1

西尾　相続の問題などは勉強になりましたね。

鈴木　倉青協は同族会社が大半なので、税の話などは参考になります。どの会社も同じような問題を抱えていますから。

小泉　倉青協会員企業はほとんどがオーナー企業なので、後継者の問題や事業承継など仲間内の話が、参考になることが多かったです。

醍醐　森本さん（森本啓久氏・森本倉庫）が会長の時にも、税と相続の問題を5回シリーズで学んだことがあり、会員にも大変好評でした。

## 計画的に会員を増強する必要がある

醍醐　私が2011年に会長を引き受けた時、会員数は114人で、総会で12人が卒業しました。私の父はチャーターメンバーですが、私を含め、チャーターメンバーの二世世代がこれから卒業を迎える時期です。三代目が入会するのにはまだ間があり、会員数が減っていくのは確実です。計画的に会員を増強する必要があると考え、「組織委員会」を立ち上げ、組織的な会員勧誘活動を行っています。初年度は新たに20人が入会し、目標では150人体制を目指しています。

鈴木　倉庫業の仕事の内容も変わってきています。サプライチェーンにおいて倉庫はその一部でしかありませんし、いろいろなことに取り組んでいる会社の人に倉青協に入ってもらい、新しい知識に触れることも大事だと思います。

大竹　鈴木さんが会長の時に、倉青協では「トップ（会長）が変わるごとに新しい手法で組織を運営することを『実学』で学べる。こんな良い会はほかにない」と言われたのを記憶しています。

鈴木　各会長がそれぞれにポリシーを持って運営されていました。私が倉青協を卒業した後、いろいろな方に「倉青協に入りなさい」とご案内していますよ。

醍醐　皆さんにとって倉青協の魅力とは何でしょうか。

西尾　「親睦と勉強」ですね。これに尽きるでしょう。

鈴木　倉青協のネットワークは仕事にも役に立っています。当社は全国区の企業を目指しているものの、そうはいってもローカルな倉庫会社です。お客様から、あるエリアで倉庫のご用命があった時に、「そのエリアではできません」と言いたくないので、倉青協の仲間にお願いし、対応したこともありました。

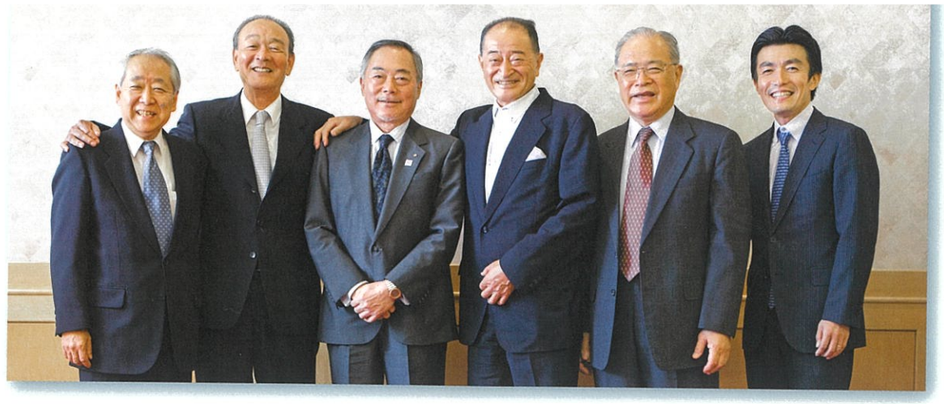
山本　そういえば当社でも、大阪に営業所を出す際、西尾さんの会社の一角を借りました。

私は、倉庫業界がどういうものか分からない時に倉青協の皆さんにお会いして、自分を見つめ、分析することができました。倉青協のおかげで「倉庫業とは何だろう」と自問し、自社の進むべき方向を考えました。

小泉　倉青協では"全国区"でのお付き合いができます。お互いに切磋琢磨するというのは同業者として重要なことです。仕事の上で協力したり、業務提携も可能な仲間とフランクに話ができるのも魅力です。

鈴木　倉青協だと他では見せられない弱みも見せられます。

大竹　私は29歳で社長になり、役員の中で一番若かったのです。20年程、そうした状況が続きましたが、倉青協に行くと、仲間に悩みを相談できました。同じ立場で同じ思いを共有できるので、大変居心地が良かったものです。倉青協に成長させてもらったという実感があります。



小泉　業界での先輩・後輩の行儀作法も身に付きましたね。息子（小泉泰志氏・第一倉庫）が入ることにも大賛成でしたよ。

鈴木　私は息子（鈴木庸介氏・富士ロジテック）に「倉青協に入れ」と言いました。

## より切磋琢磨し
## 次の世代につなげてほしい

醍醐　これからの倉青協に何を期待しますか。

西尾　時代が大きく変わっており、「こんなことも倉庫会社がする?」という仕事も増えています。我々の時代は「旦那稼業」でもよかったのでしょうが、今はそうはいきません。倉青協にも新たな風を吹き込まなくてはいけないでしょうし、150人体制を目指すというのは良いことだと思います。土地を持っていれば、勝手に資産価値が上がってもうかる時代ではありません。本気で倉庫業を経営しなければなりません。より切磋琢磨し、次の時代につなげてほしいです。

小泉　自分から問題意識を持って、勉強してほしいですね。あと、倉青協の伝統を見失わないでほしいです。倉青協が違ったものになってほしくないという思いがあります。それだけ倉青協に愛情を持っているのです。

山本　20周年記念誌に書いた通り、「『そうせい卿』になるな」と言いたいです。江戸時代に家来の進言を、「そうせい」「そうせい」と処理してきた殿様の末路は言うまでもない――という話です。「そうせい卿になるな」。40周年に際しても、もう一度そう言いたいです。

鈴木　新しいことにチャレンジすると同時に、経営の基盤は崩さないようにする――。かじ取りが難しいからこそ、仲間同士が助け合っていくべきではないでしょうか。3人に「会長をやれ」と命ぜられたことで、私は助けてもらったのです。倉青協の会長を引き受けたことは、自分の会社がいま生き残っている要因の一つだと思っています。

仲間を大切にし、いろいろなアドバイスを受けて、新しいことにチャレンジする。私が倉庫会社に入った時とは比べ物にならないスピードで環境が変化しています。見極めを慎重にしないといけませんが、じっとしているだけでは足元の砂が崩れてくるのではないでしょうか。常に変化していかなければ生き残れないと思います。

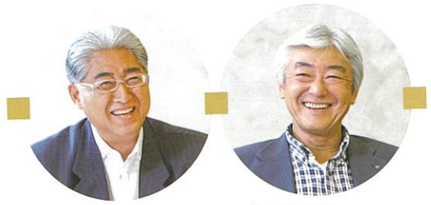
大竹　息子（大竹英明氏・三信倉庫）がIT委員長をやっていますが、息子を通してみる限り、会員同士の情報交換も頻繁で、生き生きと活動しているようです。その時々のメンバーがベストなあり方を考えて目指してやっている。倉青協は今のままで大丈夫だと思います。

醍醐　「親睦と勉強」の精神が脈々と続いていると感じます。中小企業を取り巻く事業環境が変わる中で、1社だけでは立ち行かない時代です。同じ境遇の仲間に相談できること自体が素晴らしく、日頃から親睦を深めていないことには、ざっくばらんな話もできません。

親睦をベースにそれに勉強をプラスしながら、最終的に一社一社が力を付けていくような場にし、次の時代に引き継ぎたいと思います。今日はありがとうございました。

40周年記念
座談会
Part.2

# 親睦と勉強～倉青協に愛を込めて



第13代会長
森本 啓久氏
森本倉庫株式会社
代表取締役社長

第14代会長
黒川　久氏
東邦運輸倉庫株式会社
代表取締役社長

第15代会長
樋口 恵一氏
川崎陸送株式会社
代表取締役社長

第16代会長
社本 光永氏
福玉精穀倉庫株式会社
代表取締役社長

第17代会長
鈴木　篤氏
太成倉庫株式会社
代表取締役社長

第18代会長
淺野 邦彦氏
淺野運輸倉庫株式会社
代表取締役社長

第19代会長
醍醐 正明氏
醍醐倉庫株式会社
代表取締役社長

醍醐（司会）　2013年5月に倉青協は創立40周年を迎えます。40年は成人式が2回とり行える年月ですので、チャーターメンバー（創設時のメンバー）の子や孫が倉青協に入る歳になってきています。40年の節目に活動を振り返ることは、現役メンバーにとっても意味があると思います。

## HPの「お楽しみコーナー」登場でアクセス数が急増

醍醐　皆さんが会長を務められた時代は、物流業界にとっても激動の時代だったと思われますが、会長として力を入れた活動について時代順にお話ください。

森本さんは、倉青協のホームページ（HP）を開設されましたね。

森本　1999年に会長就任が決まりました。前会長の事務局から引き継ぎを受けたのですが、会員名簿の整備に苦労しました。倉庫の所在地などの情報も古いままで、更新の必要がありました。名簿をパソコンで管理することにし、「それではHPも作ろうか」という話になりました。当時は、現在ほどパソコンが普及しておらず、たとえ持っていても、メールアドレスを交換していないケースも多く見受けられました。HPの作成は見切り発車でした。

おもしろい話があります。開設当初、HPへのアクセス数が少なかったのですが、ある時、私が全体会の様子をデジタルカメラで撮影し、HPの「お楽しみコーナー」に画像をアップしたところ、アクセス数が急に伸びたのです。自分たちのどんな写真が掲載されているのか、気になったのではないでしょうか!? それがきっかけで、デジカメを全体会に持参するメンバーが増え始め、HP用の写真を事務局に提供してくれるようになりました。

醍醐　1つのテーマをシリーズで学ぶという企画もありました。

森本　公認会計士・税理士を講師に招き、「相続と税金」について5回に分けて学びました。ちょうど二世経営者のメンバーが増えてきた頃でしたし、私自身、父から「相続について勉強をした」と聞いていましたので、時代のサイクル的にも良いタイミングだったのかもしれません。相続の話の中には、ドキッとするような事例の紹介もありましたね。

## 分科会では非常に真面目なテーマで議論

黒川　まず、東日本大震災の際には、倉青協をはじめOBの方々からもたくさんの支援をいただき、感謝しています。各地で支援物資が集まりづらく、トラックの手配もままならない頃に被災地に物資を届けていただき、東北のメンバーがどれほど心強く感じたか。会員自らが応援に来てくれて、汗水流してもらい、従業員にとってどれだけ励みになったか計り知れません。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

会長時代に力を入れたことですが、会員の出席率向上、会員の増強を目標に掲げ、それまでの「エイジグループ」の活動は休止して、4つの委員会を設置しました。具体的には、「運営委員会」「HP委員会」「見直し委員会」「30周年記念委員会」です。毎回の全体会の運営が大変だったこともあり、「運営委員会」を設置し、運営の実務を委員に任せることにしたのです。

淺野　会長の負担が少なくなったのは、その頃からですね。

黒川　全体会では毎回、3つの班に分かれて1つのテーマを議論する「分科会」を開催しました。「賃金体系を考える」、「今後の倉庫業の進むべき道を考える」――など非常にまじめなテーマで議論しています。きっと、倉庫業に対する情熱に燃えていたのでしょう。「私が社長になった時」というテーマもありましたが、会員同士でこういうことまで話せるのが、いかにも倉青協らしくていいですね。会長としての最後の仕事は第100回全体会（福岡大会）で、特別研修として釜山に視察に行きました。アジアのハブ港として台頭してきた釜山港の様子を見学し、非常に勉強になりました。当時はとにかく一生懸命に勉強した記憶があり、それによって今の自分があると感じています。

## 倉青協で学んだことを会社に持ち帰ろう

樋口　私が会長に就任して始めたのが「企業交流会」です。会員同士だけでなく、会員企業の社員も含めた「企業交流会」をやってみようと思ったのは、倉青協で学んだことを会社に持ち帰って、社内でも展開できるようにしたいという思いからです。倉青協で真面目に勉強しているのに、「遊びに行っている」と社員に思われたら悔しいですよね。

私は倉青協に入って最初に経験したのが「TQC大会」です。参加企業がそれぞれの業務改善活動を発表し優劣を競います。「自社で取り入れよう」と思いましたが、社内で理解を得られませんでした。倉青協はすばらし

40周年記念
座談会
Part.2

（樋口） い活動をしているのだから、我々経営者だけでなく、従業員にももっと知ってもらうべきではないかとずっと思っていました。従業員自身も、他社の倉庫を知ることで刺激になるし、従業員同士で横のつながりができれば仕事の連携もやりやすいと思いました。

私が会長時代の出来事で印象深いのは、物流総合効率化法の制定です。倉庫業の特例税制の延長に「表向き」の理由を付ける必要があり、当時、国土交通省総合政策局の濱勝俊貨物流通施設課長から倉青協に意見を求められました。その頃から倉青協と国土交通省の（物流施設を担当する）課長との関係が深くなったのではないでしょうか。

何しろ、景気が悪い時期だったので、「何か参考になるネタはないか」と会員の参加率も上がり、会としては盛り上がったと思います。

黒川　実際に、社員同士の交流のおかげで仕事にもつながっていますよね。

## 「裸の付き合い」でさらに出席率が向上

社本　私は「裸の付き合い」をスローガンに掲げて、親睦・懇親により重点を置きました。樋口会長時代に副会長として運営委員会を担当していたこともあって、全体会の運営ではまだ開催したことのない地で開催しようと思いました。日本海側で会員が集まりやすい地として選んだのが片山津温泉（石川）です。それから熱海、秋田、大分大会と続く「温泉シリーズ」になりました。温泉ですから、文字通りの裸の付き合いです。会議の席だけでは相手の深いところまで分からないし、交流も深まりません。「裸の付き合い」が功を奏したのか、出席率も上がり、それまで30～40人だったのが、50人程度に増え、会員だけで70人を超えた会もありました。

樋口会長時代からの「企業交流会」も引き継ぎ、2年間で計4回開催しました。下見や打ち合わせも含めると、ほとんど毎月のように倉青協の会に参加していたことになります。企画や運営を任せたメンバーから「次はここで開催したい」という意見も積極的に出るようになり、皆の力で会を盛り上げるという形ができてきました。また、会長になる前の副会長時代には、愛知万博の視察を兼ねて全体会を開催したことが思い出に残っています。

## 「親睦と勉強」のスローガンを引き継ぐ

鈴木　一般に倉青協の会長職を引き受けたがらない傾向がありますが、私の場合、父（鈴木又右衛門氏、2012年8月に他界）が倉青協の初代会長でしたし、周囲の後押しもあり、ある程度覚悟はしていました。親子で会長を務めたのは、私が初めてですが、会長を務めることができたのは、皆さんのお力添えがあってのことと思っています。倉青協は二世の集まりですから、皆さんの息子たちが会員として入ってきて、親が会長経験者で息子も会長になる――というケースもこれから出てくると思います。

会長としてのテーマですが、初代会長のスローガンであった「親睦と勉強」を引き継ぎました。今となっては父の遺言です。社本さんの「裸の付き合い」に負けず劣らず、会員の皆さんに楽しんでいただける運営を心掛けたと自負しています。

最大のイベントは、35周年記念の海外視察です。25周年と同様、視察先は米国西海岸に決めました。ロサンゼルス港、JALの貨物ターミナル、三井倉庫（米国）、現地の物流企業を視察し、情報管理能力やニッチビジネス、顧客満足度の追求など米国市場で成功している事例を学ぶことができました。視察の内容もさることながら、2年間会長をやらせていただき一番印象に残ったのは「楽しかった」という印象です。

## 「エイジグループ」で新しい団結力が生まれた

淺野　会長になって「何をしようか」と考えながら名簿を見ると、一番若いメンバーが28歳でした。会員数は110人を超えていた時期でしたが、まもなく50歳になるメンバーが目立ちました。そこで思い起こしたのが、大竹広明会長の時代に導入された「エイジグループ」です。会員を「小学生」「中学生」「高校生」「大学生」と年代ごとにグループ分けし、活動するものです。ちなみに、会長就任のあいさつで「倉庫業の未来を創造する」というスローガンを横断幕で掲げたパフォーマンスも、大竹会長を踏襲したものでした。

私が倉青協に入会した時は、当時の「エイジグループ」で最年少の「小学生」で、「大学生」と話をするのに遠慮がありました。若いメンバーは50歳近い大先輩に遠慮して話しにくいのではないかと想像できました。これが「エイジグループ」を復活させた理由です。1年目は、企業交流会もすべて「エイジグループ」単位で行うことにしました。そうすると、もともとフットワークが軽い「小学生」は自らいろいろな活動を行うようになりました。「エイジグループ」により、それまでとは違う面で倉青協の団結力が強くなったのではないかと思います。2年目になると、複数の「エイジグループ」が一緒に活動することもありました。

醍醐　東日本大震災という大きな出来事がありましたね。

淺野　2011年3月10、11日に開催された山口大会の最中に震災が起こりました。翌週には会員からメールが寄せられ、倉青協として対策本部を設けて支援を開始しました。運よく、東北の太宰さん（太宰榮一氏・白石倉庫）とメールがつながり、直接「何が必要か」という現地の要望を知ることができました。また、阪神淡路大震災を経験した藤尾さん（藤尾憲弘氏・神明倉庫）からも支援物資についてアドバイスをいただきました。倉青協会長として全会員に情報発信し、義援金や物資の調達に関してコンセンサスを得るために送ったメールは計31回です。

40周年記念
座談会
Part.2

（淺野）　支援物資を提供する“物的支援”が一段落した後、太宰さんから「荷物を出してほしいと荷主に依頼されているが、人手が足りない」という話があり、同年4月13日～5月25日にかけて、倉青協として庫内整理を支援する“人的支援”を行いました。第1クールから第6クールの計6週間、計241人が東北に入りました。

たまたま私の会社が滋賀県で、震災の影響がなかったため、会長としての指揮を執りやすかったのかもしれません。この支援は全国の会員の力を結集して実現したもので、関東では前山倉庫（茨城）、関西では当社（淺野運輸倉庫）が物資の集積拠点となり、トラックも会員から出してもらいました。十分ではなかったかもしれませんが、被災した倉青協のメンバーに対する集中的な支援はうまく機能したと思います。

## 困難を乗り越え、次のステージへ

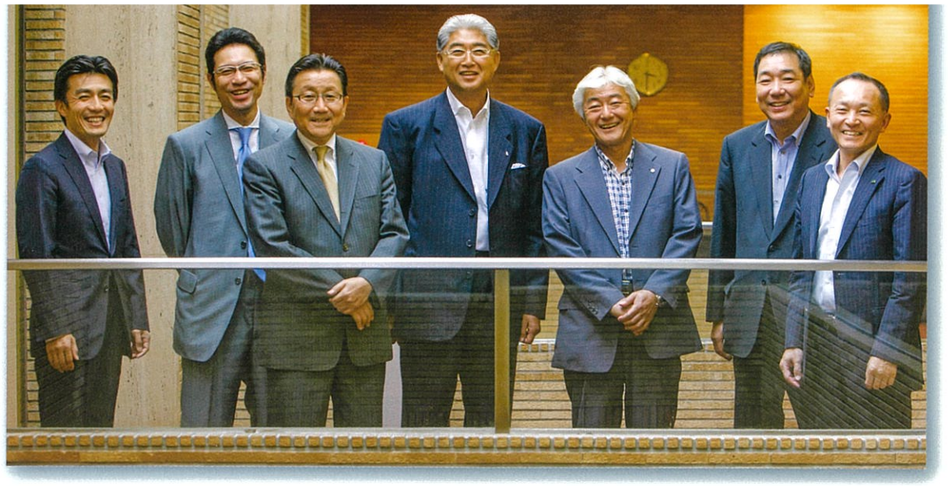
醍醐　現役メンバーの活動について紹介します。3月11日に震災があり、物的・人的支援の後、6月の総会で私は会長に就任しました。その際、福島のメンバーから「福島はこれからどうなるか分からない」という不安の声を聞き、7月に20人弱で福島の現状を視察しました。コメの倉庫で荷崩れが激しく、通常の業務にも支障をきたしていたことから、「何かできないか」と8月に福島の会員向けに人的支援を行い、パレットへの積み直しなどの作業に従事しました。後日、「うちの社員が勇気づけけられた」との言葉が寄せられ、非常時だからこそ倉青協のメンバーが協力し、助け合うことができてよかったと思います。

私が会長を務める2年間は、「災害から学び、災害に備え、被災した会員を見守る」をテーマに掲げています。被災された会員の復興状況を伝えるコーナーをホームページに設け、その間、我々も災害について学び、備える活動を続けています。また、震災から2年が経過した2013年の3月には、仙台での全体会を企画しています。

「Action for next stage!」というスローガンには、震災や景気低迷の問題も含め、我々は困難な状況にあるけれども、それを乗り越えて次のステージに進もう――という思いが込められています。倉青協も過渡期を迎えつつあります。

淺野さんの時代に「エイジグループ」の活動があって、それぞれの年代の軸になるメンバーが育っています。これはすばらしいことです。一方で、年代間のギャップも存在します。こうした中、もう一度「運営委員会」や「企業交流委員会」など委員会活動を充実させるとともに、新たに「組織委員会」を立ち上げました。私の会長就任時の総会では、12人が一気に卒業され、今後も（50歳を迎えて）着実にメンバーが減っていきます。倉青協は全国ネットワークの組織としてある程度の会員数が必要だと考えています。組織委員会を中心にチームワークで会員の勧誘活動を行った結果、初年度は新たに20人が入会しました。150人体制を目標としています。

最後に、倉青協の魅力についてまとめていただきたいのですが、鈴木さん、お願いします。



## 「遠くの親戚より、近くの倉青協」

鈴木　世代やバックグラウンド、抱えている悩みが同じで、それらを共有し、本音で話せる――。これが倉青協の最大の魅力ではないでしょうか。本来、外には出さないような各企業内部の課題も、倉青協の仲間だとすべて話せるのです。こうした集まりは、他にはなかなかありません。「血のつながり」のようなものを感じます。困った時は、「遠くの親戚よりも、近くの倉青協」です。こうした仲間に出会えるのが倉青協です。

一同　まったくその通りです。

社本　毎回、いろいろな講師を招いてくれたことも大変勉強になりました。

醍醐　ありがとうございます。こうした倉青協の伝統を受け継いでいきたいと思います。

40th Anniversary

# 日本に倉青協あり

鈴木 裕司

株式会社 拓洋　代表取締役社長


私が倉青協の会員となりましたのは、2001年3月に開催された第94回全体会埼玉大会からであります。埼玉県で初めての全体会開催ということで、京葉流通倉庫株式会社の箱守和之社長から埼玉県倉庫協会の若手メンバーに動員がかかり、私もその一員として埼玉大会に参加したのが入会のきっかけであります。その出会いから今日まで、私は倉青協から本当に多くのこと学ぶことができました。

その中でも最も感謝していることは、価値観を共有でき、心から信頼し何でも話し合える多くの仲間を得たことです。同じ時代を生きる同志として、そして同じ倉庫業を営む経営者として、会社を取り巻く様々な状況を共感し合える最高の仲間が集う場、私にとって倉青協とはそのような会であります。

昨今、経営環境はますます混迷の色を深めております。日本国内では、少子高齢化による生産力や購買力の低下に歯止めをかけることが難しい状態であります。とくに国際情勢におきましては、グローバルスタンダードに則った経営の必要性が、叫ばれる中、新たにTPPへの参加問題が持ち上がっています。もし参加となった場合は、現状でさえ低い日本の食料自給率がさらに引き下がる懸念があります。国際競争力を失いつつある日本が、高騰する輸入食糧を確保し、購入し続けることができるでしょうか。

また、GDPで日本を追い抜いた中国は、尖閣諸島への関与がその典型ですが、恫喝外交ともとれる態度を強めています。ロシアとの北方領土問題や韓国との竹島問題もしかり、これらの原因は日本の国力が衰退しているからにほかなりません。政府に対するふがいなさを感じる一方、私たち自身もいま一度日本という国のあり方を考えるべきではないでしょうか。

かつて、鎌倉時代に「元寇」という未曽有の国難がありました。そのとき、強大な敵と命がけで戦ったのは、所領を持った御家人と呼ばれた武士たちでした。明治時代においても「長崎事件」では、不当に上陸し暴虐のかぎりを尽す清国軍を、士族を中心とした市民が、自ら武器を取って撃退したそうです。

もちろん戦争はあってはなりませんが、私たちに保証されている“自由”は資本主義に基づいていることを再認識し、資本主義の思想をそれを脅かすものから自らの力で守っていくことを真剣に考えるべきです。

今、倉青協は醍醐会長のもと会員150名体制を目指しています。まさに、これからの日本で勢力を拡大し、影響力を強めようとしているのは、この日本で倉青協が担うべき大切な役割があるからではないでしょうか。私たちの子供や孫の世代に責任を持つために、私たちの大切な生命、財産を私たち自身が本気で守らねばならない時代が、再び訪れたのだと感じています。

夢のごとく儚(はかな)い一期(いちご)に、皆様と出会えた幸運をかみしめつつ、倉青協40周年における私のつたない思いを綴らせて頂きました。

# いやー、いろいろありましたね

**鳥谷部 眞実**
株式会社 ヤマウ鳥谷部臨港倉庫　代表取締役社長

ざっと倉青協の思い出をつづってみます。

倉青協に入会してすぐの東京大会2次会で、安田靖社長（大黒倉庫）に六本木に連れて行かれました。どこを見回しても店の看板も店名も見えない、ただ真っ黒な扉だけがある秘密クラブに。1時間もすると、嘲笑の渦の中で私は、真っ青なエナメルのミニスカポリス姿で、シャンパンをラッパ飲みしておりました。

安田社長を今でも恨んでいます。

2003年の福岡大会に続いた釜山港視察研修では、買い物ツアーで立ち寄ったロッテデパートで、私ひとり集合時間になってもバスに戻らず、行方不明。黒川久社長（東邦運輸倉庫）に厳重注意をいただきました。

そのとき実は、帰りの航空券も釜山の宿泊先も確保していませんでした。黒川社長、事務局に大変ご心配をかけました。

なんとか、現地の旅行代理店でソウル経由青森行き片道フライトはゲット。これに気をよくして解散後、宿無しのまま地下鉄で釜山パラダイスホテルに。カジノで朝までひと勝負!!　見事、懐を暖かくできました。背水の陣、退路を断つ!!…かぁ!?

2009年3月に行ったはじめての八甲田スキー合宿では、同2月に急遽、胃を切除した幹事の私が、スキーの板を履けず。

前夜祭の酸ヶ湯（すかゆ）温泉では、まさに宴もたけなわ。そこで突如少々お時間をいただき、遭難信号発信機「ビーコン」を皆様に手渡す。使用目的（雪崩の中から身柄の早期発見）と、装着方法を丁寧に説明。盛り上がっていた宴会があれほど静まりかえるとは思いませんでした。

翌日早朝、山頂まで一気に100人を運べる高速ロープウエーに、不安なお顔の先輩方を押し込み、私はしっかり下から見送らせてもらいました。

参加の皆さんには余計な気を遣わせ、恐怖心をあおり、反省しています。

2011年の初春、青森の寿司屋で港の仲間と酒を飲んでいるとき、醍醐さん（醍醐倉庫）、曽根さん（ダイワコーポレーション）、鈴木さん（拓洋）からケータイに電話が入る。「突然だけど、副会長を…云々…」「はあ？副会長!?なんの副会長!?」「鳥谷部さんしか…」「なに言ってるのおおお…、身分不相応…」。どちらも少し酔っていましたね。　感謝しております。

ビーコンを装着する八嶋先輩（中央）と中野先輩（左）
（2013年3月30日2回目の八甲田スキー合宿）

# 「倉青協さん」に愛を込めて !!

**曽根 和光**
株式会社 ダイワコーポレーション　代表取締役社長

父（曽根功氏:ダイワコーポレーション会長）から勧められて倉青協の会員になってから15年が過ぎました。

昔、父が倉青協の会員だった頃のTQC発表会（我社のサークルが優勝したらしいです）や、同業の経営者・後継者の方々と親睦を深めた話をよく耳にしていました。「飲み会など遊びがメインの協議会だろう」と思い入会したのですが、実際は想像をはるかに超えて「よく学び、よく遊ぶ」会でした。よく学んでから、よく遊ぶのは本当に気持ちの良いことです。毎回倉青協の全体会や会合に参加した後は、大きな達成感があり大満足しています。

倉青協には心の底から感謝しています。倉青協に入会し活動していなかったらと想像するのが怖いくらいです。

そこで、私の感謝を箇条書きにしました。愛を込めて“倉青協さん”と呼ばせて下さい。

1）“倉青協さん”のおかげで、北海道から九州までたくさんのかけがえのない仲間ができました。信頼できる仲間です。 おかげで全国にネットワークができました。ありがとう！

2）会員間で倉庫の融通や協業、顧客紹介を実行しています。 実業にも貢献してくれてありがとう！

3）“倉青協さん”には「胸襟を開く」方が多く、すぐに本音トークをすることができます。 一層「人」を好きになりました。公私を問わず悩みを聞いてもらったり、相談を受けたりしています。 本当にありがとう！

4）“倉青協さん”があるから、日本全国の様々な地域を訪ね、各地の倉庫見学や地方色豊かなおいしい食事ができます。2次会では素敵な「お花畑」にも案内してもらえます。 ありがとう！

5）監督官庁である国土交通省と信頼関係を持って情報交換できるのは、“倉青協さん”がいてくれるからです。 貴重な機会を与えてくれてありがとう！

これからも倉青協が世代を越えて倉庫業青年経営者の「親睦と勉強」の場として、さらに活性化・進化していくことを切に願っています。

倉　青　協　よ　永　遠　な　れ　！

倉青協のかけがえのない仲間達と

40th Anniversary

# 素晴らしき哉、倉青協！

太宰 榮一
株式会社 白石倉庫　代表取締役社長

倉青協スキー部安比合宿

1996年秋の盛岡大会で私は倉青協に入会しました。29歳の時です。かれこれ20年近くお世話になっていますが、入会した時のことがついこの間のように思い出されます。入会直後に参加した、小学生グループだけの金沢で開催の勉強会では、同世代の仲間との距離が一気に縮まりました。

その後はまさに「記憶に残る倉青協」で、様々な協会活動のシーンが脳裏に焼き付いています。会合に参加するたびに飛び交う貴重なナマの情報、積極的な発言、仲間の参加していく姿勢に強い刺激を受けました。「こういう経営者になりたい」「あんな粋(いき)なスピーチのできる大人になりたい」と憧(あこが)れ、倉青協の人材の豊かさに毎回圧倒されました。「いまの自分があるのも倉青協に入会したおかげ」、「倉青協の仲間はかけがえのない財産だ」、こうした強い思いがあります。

そして忘れることのできないのが、“3.11（東日本大震災）”以降の日々です。震災当日からの励ましのメールや電話を頂きました。どこよりも早く支援物資を届けてくれたのも倉青協の仲間でした。会員の皆さん自ら被災地入りし、先頭に立って復旧作業を支援してくれたことは、思い出すだけで目頭が熱くなります。

震災直後からの1年、何も考えずに復旧に注力できたのも倉青協の皆さんの温かいご支援があったからです。本当に本当にありがとうございました。現在、再生に向かって努力していますが、予想以上に放射能汚染による風評被害の影響が大きく、震災直後とは違った苦難と戦っています。 震災後3年目となる2014年を「再生元年」と位置付け、必ずや皆様の御厚情にお応えし、被災地再生の礎(いしづえ)になりたいと思います。

さて、このような困難な状況でも、元気で明るく前向きに復興に取り組めたのは、倉青協の活動を通じて育まれた「ユーモア」のおかげです。倉青協メンバーの会話は非常に知的なユーモアにあふれ、たまに直球勝負の発言もあり、一緒にいて実に楽しいのです。困難な状況でも忘れないユーモアが、被災した我々をどれほど勇気づけてくれたか。復旧作業の応援に来てくれた皆さんと、「作業着で国分町（東北一の大歓楽街）ツアー」を敢行したことも忘れられません。

有志による活動も魅力的です。東京倉庫運輸の池田雅一氏のご厚意により、2006年には東北地区の倉青協メンバー5人とOBの八嶋祐太郎氏（八嶋合名会社）で「東北イーソーコ」を運営する会社「ロジリンクス」を立ち上げました。また、同時期に伝説の「倉青協スキー部」が自然発生的に設立されました。毎年スキー合宿を行い10周年目には海外合宿を目指しています。また、東北の夏祭り開催時に合わせた「みちのく夏祭りツアー」も開催しています。これらの活動により東北地区のメンバーがより信頼関係を強くし、そして全国のメンバーとさらに強い絆(きずな)で結ばれたと思います。なお、大黒倉庫安田靖氏をトップとする有志の会「倉青協国防委員会」も2011年2月に結成されました。

卒業まで残り少なくなりましたが、東日本大震災直後に淺野邦彦前会長、醍醐正明会長の陣頭指揮のもと倉青協の「仲間」から支援頂いた恩を忘れず、必ずや復興、再生を果たし、引き続き皆さんに「最強の軍曹:太宰榮一」として親しまれるようユーモアを忘れずに参加していきたいと思います。

最後に私は叫びたい!
「素晴らしき哉、倉青協!」

倉青協国防委員会の面々

40th Anniversary

# 倉青協の仲間づくりと事業の連携

**堀畑　浩重**

阪南倉庫 株式会社　専務取締役

生川倉庫で開催された企業交流委員会（2012年4月27日三重）

思い起こせば、私はちょうど倉青協創立30周年にあたる、2003年に入会しました。それより10年が経ちますが、私が感じている倉青協という素晴らしい会への参加意義についてお話したいと思います。

はじめに、当社の置かれている経営環境について簡単に触れます。当社は、南大阪エリアで営業倉庫を営み、自社の貨物自動車は所有していません。主たるサービスは、倉庫を中核とした物流サービスです。

南大阪では、毛布やタオル、絨毯などの繊維産業が盛んで、当社はその物流を手掛けることにより事業を伸ばしてきました。しかし地場の産業は縮小傾向にあり、また南大阪という限定された立地条件でも、新規顧客獲得のコンペでは全国規模の物流会社や商社、異業種の企業が参入してきます。当社が受注するために、どのように自社のサービス品質や競争力を高めることができるかが、非常に大きな経営課題でした。そのような課題を持ちつつ、倉青協に参加しました。

倉青協でまず感じたことは、会員間の壁がほとんどないことでした。仕事のことも、プライベートも、思う存分自分をさらけ出せる仲間に出会えたことに非常に驚きました。一般的な企業の交流会では、自社の成功体験しか話さない、謙遜して何も話さない…。自分が本当に知りたい情報を得るのは非常に難しいです。

しかし、倉青協では、他メンバーに自分の悩みや会社の課題を話すと、「ウチはこう解決した」など、まるで自分のことのように親身になってアドバイスをくれました。今では、この文化を更に発展させるため、年に数回、「自社サービスのベンチマークや業界の将来像」、「倉庫業の人事や経理の考え方」など、テーマを設けて勉強会を積極的に開催しています。

南大阪という限られたエリアで事業を展開している当社が、様々な業種との物流コンペにどうやって勝ち残れるのか…。その為には、コストや品質などサービスレベルについて共通認識を持った全国の同業他社と連携できればと考えています。

倉青協に参加することで課題解決の糸口を見つけたいと思っていましたが、実は、倉青協で特別な仲間をつくることそのものが解決策だったのです。最初は親睦でも、徐々に他メンバーの会社のあり方や理念、社風を知るようになり、さらにはその会社と自分の会社で連携・協力できるところがあれば実施する——。

そのような関係を、自ら求めれば構築できるのが倉青協です。ぜひ更に多くの人に参加頂きたいと思っていますし、私はこれからも積極的に参加していきたいと思っています。

40th Anniversary

# 倉青協の意義

倉青協は私の学校です。育ててくれた倉青協への感謝の気持ちをお伝えし、今後のますますの発展を心から祈念しています。

我々の仕事は「サービス」によって成り立っており、最も重要なのは「経営理念」です。昨今、こうした認識が薄れている様に感じているのは私だけではないでしょう。

「サービス」とは事業のための最も基本的な要素で、お客様のニーズを先読みし、創造することが重要です。しかし、いずれは他社にマネされます。そのため各社の創意と工夫が詰まった適切な「仕組み」があって初めてお客様は満足します。また「サービス」と「仕組み」を生み出すのは「人」。それをお客様に提供するのも「人」。それはその会社と社員ならではの独自要素なので常に『Think Different』（他社と違うアイデア）が必要です。倉庫業もサービス業であると気付かされたのは、倉青協のおかげですよ!!

私の経営は、

第一に「経営理念の共有化と展開」（トップは使命や経営理念を明確にしてステークホルダーと共有）、

第二に「経営理念に基づく意思決定」（原点回帰経営でブレない自律的な成長）、

第三に「自律的な判断ができる組織づくりと人材育成」（組織づくりは緩やかな組織を基本とし、経営理念に即した自律的な判断ができる人材を育成）、

第四に「ステークホルダー・エンゲージメント」（密接なステークホルダーと経営理念を媒体として目的を共有し、全員参画型の経営を実践）、

第五に「事業活動を通じて経営理念を価値に変えて行く」（経営理念から導かれた自社の価値に向き合い、これを不断の努力で究め続けることで需要や市場を創出）、

を心掛けていますが、その志を持続できたのも倉青協での会員の皆さんとの情報交換

生川 泰成
生川倉庫 株式会社　代表取締役社長

や経験のおかげだと思います。

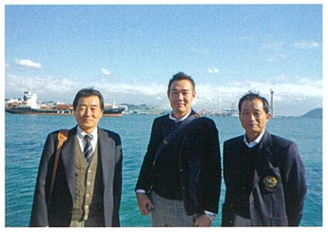
私は海外生活も長く、日本を客観的に見る癖があります。（だからこそ日本人の誇りを強く意識しているのですが…）日本人は名誉を守り、個人の希望よりも地域社会や国家の望みを優先し、また自己の利益よりも公益を高く重視する強い気持ちを持った国民です。近隣諸国との問題があっても、昔から日本は発展途上であったアジアの国々に対し、自信と進むべき道を示し、以降日本に続き世界経済の上位に躍り出た数々の国家に希望を与えてきたはずです。日本は技術とその革新への努力、勤勉さと責任感、伝統的価値を重んずるという点で、グローバル化した世界の模範であり、これまで以上にリーダーとしての力を発揮すべきです。世界は常に日本のことを大変な名誉と誇り、そして規律を重んじる国民だとみています。歴史に裏打ちされた誇り高き伝統を持つ国民であり、不屈の精神、断固たる決意、そして秀でることへ願望を持って、何事にも取り組む国民なのです。

話題が変って、すばらしい歴代の会長による運営の中で私が一番思い出深いのは、福玉精穀倉庫の社本光永社長の時代です。私は運営委員長を任されました。いわば“表”の事務局である舟橋幸二氏（福玉精穀）と“影”の事務局である私が、社本会長の「裸の付き合い」をモットーに活動したわけですが、脱線につぐ脱線の連続でした。

倉青協の活動は「親睦と勉強」がテーマです。似たような境遇のオーナー企業の後継経営者にとって、本音で仕事の情報交換をしたり、経営上の悩みを相談し合える仲間ができる貴重な場所です。私も多くの協会やセミナー、研修会などに参加していますが、「自分にとって、こんなにためになる協会は、ここしかない!」と思います。

最後に後輩の皆さんに一言、「倉青協で生涯の友を見つけられるように。これからも倉青協での絆（きずな）を大切にし、そして頑張りましょう!!」

# 「倉青協」のお陰で



箱守社長(左)に誘われ、半強制的に入会
(写真右はミナモト倉庫 押田一夫社長)

**野口 英徳**
野口倉庫 株式会社　代表取締役社長

私が入会したのは、1996年の大竹広明会長の時です。入会のきっかけは、地元埼玉で今でも大変お世話になっている、京葉流通倉庫の箱守和之社長です。社長が来社され、あまり説明のないままに、「この入会書に記入してよ」と言われ、その通り記入したところ、そのまま倉青協の入会手続きとなってしまいました。倉青協に入会するかどうかを考える間もありませんでした。その時に箱守社長から言われたのが、「同業者で同じ立場の若い経営者と知り合いになる事は、野口君にとってとてもためになるから」と説明がありました。

その年の6月の全体会に出席することになったのです。当時、私は24歳でダントツの最年少会員でしたから、先輩方と年も離れており、しかも、とてもすばらしい企業の経営者ばかりでしたので、身分相応ではないと感じ、「やはりこの会に参加するのはやめよう」と思っていました。

しかし、当時の大竹会長体制での、エイジグループで気持ちが変わりました。エイジグループは、年の近い会員ごとに大学生・高校生・中学生・小学生グループに分かれていました。小学生グループのリーダーである浅野運輸倉庫の浅野邦彦社長から、石川県にある山中温泉で勉強会を開催するという案内があり、昼は勉強会、夜は懇親会と、こんな私を温かく迎え入れて頂きました。この勉強会で小学生グループの面々が私と同じ悩みを持っていることが分かり、意気投合したのは、とても印象に残っています。

ある先輩からは、「こんなに若いモンが倉青協に入ってはいけない」と怒られたり、ある先輩からは挨拶すると同時に突然、首根っこを押さえられ、「若いね、頑張れよな」と言われ、怖い思いをしたのは今でも覚えています。散々飲まされ、踊らされて、まさに体育会系の懇親会が盛大に盛り上がったことは言うまでもありません。私が倉青協にフル参加をするようになったのは、それからです。毎回、社内のトラブルや営業方法について、各地のメンバーに相談し、アドバイスをもらいました。本当に心を許し合った仲間でなければ、言えないような相談でも、すぐに親身になって何でも教えて頂けたことに、今でも感謝しています。

倉青協に誘っていただいた京葉流通倉庫の箱守社長、当時のエイジグループを作って頂いた大竹会長や小学生グループリーダーの浅野社長、そしてグループメンバーの集まりがなければ、これほど倉青協にお世話になることもなかったと思います。人との出会いでビジネスが広がっていくことを実感しました。それから16年もの月日が経っていますが、倉青協のつながりで、いまだに卒業生の先輩方にはビジネスやプライベートで大変お世話になっています。

共に大いに学び大いに遊ぶ、こんなすばらしいコミュニティーは、ほかにはないと思っています。私は倉青協のおかげで「本気」で物流業をやっていく自信がつきました。あと10年間倉青協に在籍できるので、精一杯楽しみ、勉強したいと思っています。

# 「親睦と勉強」は伊達(だて)じゃない

前山流クールビズ姿。背景は金屏風

**前山　諭**
前山倉庫 株式会社　代表取締役社長

「どうやら"倉庫協会青年部"ではないらしいが…?」とか「"倉庫業青年経営者協議会"とは何やら長たらしい名前だ」などと思いつつ、私が倉青協に入会したのは2000年前後だった。当初私は、地元や全国にある、他の協会にありがちな「オヤジの集まり」的な会合を想像していて、倉青協に積極的に参加するようになったのは2005年あたりからだ。

ところが、参加してすぐに、その指針に掲げられた「親睦と勉強」は伊達ではないと分かった。いやスゴイのなんの、勉強会では膝を突き合わせての真剣な議論が何時間も続き、露天風呂でものぼせるまで延々と仕事の話。そして遊ぶ時は徹底して遊ぶ! もうみんな親の敵(かたき)を取るみたいに真剣に、全力でぶっ倒れるまで徹底的に遊ぶ。しかも驚くのはここからだ。さんざん盛り上がった翌日でも、涼しい顔で、社員よりも早く一番に出社するメンバーや、朝イチの飛行機で地元の会議に戻って行くメンバー、自家用車を飛ばして、500km以上の道のりを、クレーム対応にスクランブルして行くメンバー等々…。スゴイ! なぜもっと早く参加しなかったのかと後悔した。

鳥肌が立つほどに倉青協の底力を実感したのは、忘れもしないあの日、2011年3月11日(東日本大震災)からの数日間だった。多くのメンバーが前日の山口での全体会からの帰り道に足止めを食い、しかも各地で停電が続いていた。そうした中、3月12日の朝方から倉青協メンバー間でSNSやメールを駆使したやり取りが始まり、14日には被災地のメンバーとの連絡も取れて、その情報を倉青協事務局に集約。大まかな状況を把握できた。そして、翌15日には札幌・青森のメンバーが自主的に支援物資の第1便を発送。それに続いて、メンバーから届いた支援物資の提供に関するアイデアを事務局が取りまとめ、具体的実施方法を決定。すぐに「調達チーム」と「輸送チーム」に分かれて行動を開始した。16日夜には、関西・北陸の有志からの支援物資が北陸自動車道迂回ルートで宮城へ。その後、取引先に物資の提供を依頼してくれたり、自社や自宅の備蓄品を供出してくれたメンバーもあった。また、関東を中心に、燃料や食材などの買い占めが進む中、やっと手に入れた品を提供してくれたメンバーも。続々と全国から物資提供や協力の申し出、様々な情報などが寄せられた。

一方被災地では、自ら被災しながらも被害を免れた建屋の一画で、これらの物資を荷受けし、周辺の被災者に物資を配ってくれたメンバーがいた。また、自分の会社のことは後回しにして、被災した地元自治体の支援に回っていた倉青協OBの方たちもいた。こうして倉青協メンバーのまさに総力戦による物資輸送は、3月いっぱい続けられた。4月以降は、復旧のための作業支援を開始。こうした支援活動が滞りなく行えたのは、あのような非常時にも「情報」「調達」「輸送」「保管」「荷役」「配送」というロジスティクスの要所をきっちり押さえた、まさに物流のプロならではの判断力、実行力の結果と言えるだろう。そして、それらがしっかりと融合して機能できたのは、各メンバーの熱い心と、これまで倉青協が培ってきたメンバー同士の絆(きずな)があったからこそだと思う。

嗚呼(ああ)! 親睦と勉強! 万歳! Viva! 倉青協!!

自ら経営する温泉旅館

# 優れた人材の宝庫

山田 英之
高松臨港倉庫 株式会社　代表取締役社長

私は1992年の第20回総会で倉青協に入会しました。当時の私は、地元に戻り入社2年目。倉庫業に関しても経営に関しても、素人同然でした。初めて全国規模の会に出席し、大変緊張していたのを、まるで昨日のことのように覚えています。その大会で、諸先輩方が真剣に勉強されている姿を拝見して、瞬く間に会の虜になりました。

それから20年間、今日まで私なりに一生懸命活動させていただきました。最も思い出深かったことは、大竹広明会長の時代に淺野邦彦副会長の音頭で、35歳以下の“駆け出しの若手”が石川県山中温泉に集まり、経営全般にわたって一晩中真剣に議論したことです。今思えば当たり前のような事柄について、真剣に考えていたあのひとときは、今でも忘れがたいものです。

その後、社業の関係で思うように参加できないこともありましたが、久しぶりに参加しても、変わらず温かく迎えてくださる雰囲気が本当にすばらしいと思っております。個々の会員の事情に配慮し、いつでも迎えようという受容的な雰囲気があるということは、数多くある他の団体と比較してみても、特筆すべきことだと思います。

ある先輩が、こうおっしゃいました。「この会には“ゆるやかな結束”があるのがいいところだ」。私もそれを実感しています。これこそ、倉青協が長続きしている秘訣ではないでしょうか。

さらに、もう一つの長続きの秘訣は、人材の豊かさです。私自身が経営者として迷いが生じたときに、倉青協メンバーのたった一言で目の前の霧が晴れたかのように、事態打開の糸口がつかめたという経験が何度もありました。まさしく、優れた人材の宝庫だと思います。倉青協をつくってくれた諸先輩方、また、参加する機会を与えてくれたこと、そこで多くのすばらしい人と出会えたことに対し、言葉に言い尽くせないほど感謝しています。

今後、倉青協のさらなる発展のために、全国に広がる逸材を広く求め、新しい風を呼び込み、一丸となって、物流業界の頂点を目指そう。

＜余談＞

さかのぼること数年前、OBメンバーと現役メンバーの有志によりスキー部が発足しました。皆様の入会をお待ちしております。ゴンドラの中で、ゲレンデで、またはアフターのひととき、経営について、人生について熱く語り合いましょう!!

経営について熱く語り合った仲間たち

# 50年、100年と年輪を刻む倉青協に

安藤 暢啓
大成倉庫 株式会社　代表取締役社長

「さすが倉青協」と思う事柄をいくつか述べさせていただきます。

1つは、まずは40年という長きにわたり、創立時の思いを継続しつつ、現在まで発展を続けていることです。会長は2年おきに代わりますが、皆さんの「倉庫業がさらに発展することを願う気持ち」は変わらないということでしょう。私自身も、「親睦と勉強」を指針とする倉青協メンバーでいることに大きな喜びを感じています。

2つ目は、2011年3月11日の東日本大震災関連です。この日は、下関で開催された山口大会の2日目で、忘れることができない大会となりました。

他地区から出席していたメンバーは、ただちに会社や社員の状況把握、そして帰りの交通の手配等々、相当に混乱していたことが思い出されます。結果として、東北から関東地区と広範囲にわたり甚大な被害に見舞われましたが、その後の応援体制は、全国を網羅する倉青協ネットワークが見事な連携プレーで最高のパフォーマンスを発揮したのではないかと思っています。早期の完全復旧と被災地の皆さんのさらなる発展の姿を祈念してやみません。

3つ目は、最近の若手メンバーのエネルギーのスゴさです。若手が増えたことで、以前と比べ「夜のはじけ具合」に圧倒されています。それと同じくらい、仕事も全力投球なのです。「親睦と勉強」を忘れずに、仕事と遊びに懸けるその力で末永く頑張っていただきたいと願うばかりです。

いくつかの記憶に残る事柄を記述しましたが、今後も会長の方針の下、積極的に活動を行い、これからも50年、100年と年輪を刻んでいく倉青協になれば、一会員としてこれにまさる喜びはありません。

全国のメンバーが集まれば“一倉庫業者”から、“流れを作る倉庫業者”へと大きな力に変わっていくと確信しています。会員各社のさらなる交流を通じて、倉青協がますますすばらしい会となり、創立時の遺伝子を受け継いでいただきたいと思う次第です。

最後になりますが、2007年3月に大分大会を別府市にて開催していただきました。当時の社本光永会長には、当地を選んで頂きましたことに、心より感謝しています。

大成倉庫の施設見学会
（2007年3月28日大分大会）

# 倉青協の存在、役割を進化させる

若松 孝夫
若松梱包運輸倉庫 株式会社　取締役広域事業部長

日本を代表する大手電機メーカーが経営難に陥るなど日本経済は、重大な試練の時を迎えている。メーカー各社や流通各社を顧客とする我々倉庫業の苦悩は、さらに深い。消費者に直接モノが届く、ネット通販の隆盛は、従来の流通システムに大きな変革を要求している。一方で、全国配送網を持つ大手物流企業は、大規模倉庫等に投資を行い、強大化を加速させている。

だが、嘆いているだけでは何も変わらない。どんなに苦難な状況でも工夫と創意、知恵と発想でそれを打ち破るのが経営者の務めである。

では、創意工夫、知恵と発想を得るためにはどうすればよいのか。これらに共通のカギは「情報」だ。広範なネットワークを持ち、いち早く有用な情報を手に入れて、それを基に考え、行動する。単純なようだが、それしか事態打開の道はないだろう。

多品種少量貨物の増加は倉庫業の変革を要求するが、どう変えて行けばいいのか。特定地域に根を張る倉庫事業者としては、全国の他の地域の事業者との提携・連携を図るべきだが、どこにどんな相手がいるのか。災害リスク対応を、できるだけローコストで行うにはどうすべきか。情報を早く的確に入手することが取り組みの第一歩である。

そうした中で、倉青協に期待されるものは大きい。いや、我々自身が倉青協の存在なり役割なりを、我々が期待するような姿に進化させていくべきだ。

たとえば、従来の勉強会を発展、視野をもっと広く、外部に向けるべきだ。具体的なビジネスの内容の情報交換にまで踏み込んだオープンな勉強会、若手経営者ならではの先進的アイデアを競い合う形式の勉強会などはどうか。

ホームページによる情報提供の仕組みとしてもっと鮮度が高く、業務に直結するような情報を入手できたり交換し合えるシステムがあってもよいのではないか。

また、二世経営者が多いという倉青協の性格上、テーマを事業承継に絞った活動もいいだろう。地域間ネットワークを強固にするため、地域部会の創設といった新たな活動にも積極的に取り組んで行きたい。

2009年11月 富山大会 倉青協貸切列車にて

# 倉青協始まって以来、三世代会員に

村田 龍一
日本流通倉庫 株式会社　代表取締役社長

私が、倉青協に入会させていただいたのは2007年でした。大学卒業後に他社に就職し、物流会社での修行を終えて自社に入社したばかりで、倉庫業界の右も左も分かっていない頃でした。「倉青協始まって以来、初の三世代の会員」ということで、先輩方には非常に親切にしていただいたことを思い出します。

経営についてはもちろんのこと、通常の会社業務から事業承継など、プライベートまですべての悩みごとに、仲間として親身に相談に乗っていただけるのも倉青協の魅力ではないでしょうか。

会員メンバーは志が高い人ばかりで、視察や懇親会でご一緒するだけで、非常に良い刺激をいただき、社業に活かしています（教育的指導を受けることもしばしばですが…）。とくに、会員各社が考える将来の業界展望や事業に対する多面的な思考と見識。身近なところで言えば、お客様に対する気配りや従業員に対する会社ビジョンの浸透や気遣いには感服することばかりです。

日本経済が悲観的なムードに包まれ、地殻変動的な産業構造の変化の中、倉庫を中心とした物流業界も大きな変革を強いられています。物流不動産への国内外大手プレーヤーの新規参入と旺盛な投資意欲、大手通販事業者による大規模な倉庫需要と商流の変化。老朽化した倉庫施設の新規活用方法。各企業が解決していかなければいけない課題が山積している中、中小倉庫事業者だからできることが、必ずあるはずです。

全国各地の同じ環境にある倉庫会社が、知恵を出し合い、切磋琢磨できる倉青協が、より影響力のある業界団体になっていくことと思いますし、大好きで大切な会です!!

私が卒業を迎える頃には、日本経済を取り巻く環境も倉庫業界も、さらなる変革を遂げていると容易に推測できます。その間、倉青協を通じ"よく学びよく遊び"時代の変遷に対応できるよう備え、事業継続はもちろんのこと、諸先輩方が築き上げてきた倉庫業界、そして、倉青協のさらなる発展に、微力ながら貢献したいと考えております（会員皆様のパワーを吸収して頑張ります!!）。

一家で倉青協メンバー。母、村田三枝子氏（左）と祖父、村田和夫氏

# 倉青協と言う学舎

吉野 栄治
株式会社 ブレイン　代表取締役

倉青協は「若手倉庫経営者が親睦、情報交換を行い、共通する悩みや課題を議論する場だ」と先輩から聞かされていましたが、まさにその通りだと実感した出来事が、これまでにたくさんありました。

入会当時私は、父がオーナーの企業を経営していました。意見の相違から独立した時や、社内の管理システムや作業手法で悩んだ時も、同じ境遇や経験を持つ倉青協メンバーに相談できたのは本当にありがたかったです。また、倉庫業の枠を越えたサービスを展開している仲間が多いことにも非常に驚かされました。

メンバーたちは皆同じ様に、新しい時代の倉庫業を構築しようと必死で行動しています。そんな仲間たちに強い刺激を受けながら、「私も負けてはいられない」と日々奮闘してきました。今では多数の企業を訪問し、ともに新しいサービスの展開を志す仲間と、様々なビジネスモデルの構築に取り組んでいます。

倉庫業という枠は同じでありながら、各社業種業態がまったく異なり、企業文化や問題解決の方法が多様であることを実感します。まるで学生時代に戻ったかのような気持ちで、仲間と勉強し、笑い、楽しむ。こうした倉青協での経験が、自分自身の人生を導いているような気さえしてきます。

“倉青協ライフ”の中でも忘れることができないのは山口大会です。当時の淺野邦彦会長から入会間もない私に声をかけていただき、地元幹事を任命されました。先輩たちに叱咤激励されながら大会準備に励みました。

ところが、大会初日2011年3月10日の、翌3月11日は、東日本を中心とした日本全土に未曽有の被害をもたらした東日本大震災でした。

会期2日目の午後に震災は起こりました。被災地出身の会員や被災地に事業所を持つ会員も多く、すぐには状況を把握することもできません。交通機関が麻痺した中で帰路に着くこともできず、騒然とした雰囲気を今でも鮮明に覚えています。

しかし、その後すぐに私は、倉青協の一致団結した行動力に感動することになります。震災直後の被災地に対する支援物資の供給は困難を極めます。被災地の現状把握に始まり、支援物資の調達、輸送車両・燃料の確保やルートの確認と様々な悪条件の中で、一刻も早く被災地に物資を届けなければなりません。

「何が足りないのか」「どこに集めて誰が輸送するのか」。物流のプロたちが集結し、すさまじいエネルギーを発したことを今でも思い出します。

同じ年の6月、醍醐正明会長に協会運営が引き継がれた後も、倉青協メンバーや会員企業の社員による様々な形での被災地復興支援が続くこととなりました。

私はこの倉青協で、日本人の優しさと日本企業の心意気を、体験することになりました。今では父とも和解し、グループ全企業の代表に就任することになりましたが、倉青協で学んだ経験を生かして新しい自分づくり、事業展開ができると確信しています。

経済の急激な変化や産業革新が進む中、倉庫業者には新たなビジネススキームが必要とされています。多くの障壁がありますが、倉青協は日本の物流に大きな変革を起こせるのではないかと期待しています。

「大いに遊び」、「大いに学ぶ」。これからも倉青協という“学舎”で人生を楽しみたいと思います。

# 倉青協ってスゴイ!

髙嶋 民仁
株式会社 ウインローダー　代表取締役社長

倉青協の凄さを知った“高層マンション”外観

倉青協に入会して、初めはとまどいの連続でした。淺野邦彦前会長は、「エイジグループ」制を敷かれ、年齢の近い会員同士が集まるようにグループ分けされました。私は一番若い方の集まる小学生グループの配属となりました。初めての参加は三信倉庫の大竹英明社長の会社で行われた打ち合わせでした。倉庫会社の集まりなので、てっきり集合場所は倉庫だと思い込んで、打ち合わせ場所を探したのですが見つからず、何度か大竹社長に連絡をしてしまいました。それもそのはず、指定された場所は実は高層マンションだったのです。その最上階に通され、大竹社長に「この部屋借りているんですか? 良いところですね?」と伺ったところ、「うん、このマンション持ってんだ」って。「ええっ!?」それが私の倉青協のはじまりでした。OB会員の阿部英勝社長（フコク）から「倉青協は凄いぞ!」と伺っておりましたが、想像以上でした。

どのように皆さんと接して良いか思案していた時に、村田龍一社長（日本流通倉庫）や花島伸雄常務（楠原輸送）から声をかけて頂き、有難いことでした。お二人のことを深く知るようになった今、それは自分にとって良いことだったのか?と思うこともたまにありますが…。その後、現協会長の醍醐正明社長（醍醐倉庫）、曽根和光社長（ダイワコーポレーション）、野口英徳社長（野口倉庫）、小山嘉一郎社長（小山倉庫）、谷川隆史常務（谷川運輸倉庫）をご紹介いただき、随分と交友関係が広がりました。

もともとは、「エコランド」という当社の新ビジネスを全国展開したいと思って阿部社長に相談し、倉青協への入会を勧められた経緯があります。阿部社長からは現会員の齋藤宏明社長（ひかり倉庫）をご紹介頂きました。それもある意味、強い力に導かれていたのかもしれません。なぜならば、後に知ることとなりましたが、齋藤社長は大学院の同じゼミの先輩でした。大変驚いたことを覚えています。研究内容もひょっとしたら似ているかも知れません…。色んな意味で…。

私にとって倉青協とは、自分のビジョンである「エコランド」全国展開の実現と、尊敬できる仲間、いや生涯の仲間づくりのために、とても重要な集まりです。入会したての頃は、誰も知らない方ばかりで、どんな人がいるんだろう?と借りてきた猫のようにおとなしくしているのみでしたが、今では全体会や分科会、はたまたスペシャルな別件でお会いできることが何より楽しみです。

当社の売上構成は運送事業が大きなウェイトを占めています。運送業出身かつ新参者だからこそできる提案をこれからも行い、醍醐会長の掲げる「Action for next stage!」の実現に貢献し、これからも倉庫業活性化のために精力的に動いていきます。

同エントランスホール

同オーナールーム

# 東日本大震災と倉青協

2011年3月11日――。三陸沖を震源地とするマグニチュード9.0の地震は、地震による揺れと巨大津波の発生により、東北を中心に東日本全域で甚大な被害をもたらしました。倉青協は震災発生直後から、淺野邦彦前会長（淺野運輸倉庫）の下、被災した会員を支援するため緊急支援物資の供給や義援金の募集、倉庫の復旧のためのボランティア活動を行いました。倉青協の全国ネットワークとこれまで培ってきた会員同士の信頼がこうした支援に結び付いたものです。同年6月、淺野前会長のバトンを引き継いだ醍醐正明新会長（醍醐倉庫）は、「災害から学び、災害に備え、被災した会員を見守る」を任期2年間の最重要テーマと位置付け、様々な活動に取り組んできました。

| | 青森県 | 岩手県 | 宮城県 | 福島県 |
|---|---|---|---|---|
| 登録棟数 | 110棟（170674㎡） | 47棟（75619㎡） | 312棟（778143㎡） | 200棟（363272㎡） |
| 全壊 | 0棟 | 0棟 | 117棟（304842㎡） | 3棟（3630㎡） |
| 半壊 | 13棟（18868㎡） | 0棟 | 43棟（142330㎡） | 6棟（17922㎡） |
| 一部損壊 | 0棟 | 8棟（5964㎡） | 92棟（230844㎡） | 68棟（129626㎡） |

※東北倉連会員事業者の1～3類倉庫の被害状況

## ●ボランティア活動は延べ241人に

震災が発生したのは、倉青協山口大会が行われた翌日、帰路に就こうとしていたところ。地震に伴う大津波によって青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県など三陸沿岸から関東地方沿岸では壊滅的な被害が発生し、死者数、行方不明者数とも阪神大震災を大幅に上回る、戦後最大の災害となりました。また、地震後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故では、周辺住民に避難命令が出されるなど深刻な状況が続いています。

倉青協では、震災直後の通信手段がままならない中、東北の会員とメール等で連絡を取り合い、現地で何が必要かの情報収集に努めました。全国の会員から水、食料、毛布などを集めて関東、関西の会員を中継し、東北の会員やOB会員に届けました。合計7運行の物資輸送が行われ、東北の会員を通じて、物資が不足している地域にも送られました。

東北の会員の倉庫では地震の揺れによる荷崩れが発生し、4月7日に襲った大きな余震が再び被害を大きくしました。義援金や救援物資を供給する“物的支援”以上に、倉青協ならではの支援の形が、倉庫内の作業従事者を派遣する“人的支援”でした。「倉庫はヒトがすべて」という倉庫会社が持つDNAと日頃の信頼関係が基盤にあり、倉庫内の清掃やはい付けなどのボランティア活動の参加者は会員の社員も含めて延べ241人となりました。



# 人と人とのつながりで結ばれた全国ネットワークで災害に負けない倉庫企業集団へ

## 県外倉庫との連携が災害支援物流の円滑化に

東北倉庫協会連合会および日本倉庫協会がまとめた「東日本大震災被害等の記録」によると、東日本大震災による東北4県（青森、岩手、宮城、福島）の会員の被害状況は、1～3類倉庫で全壊が120棟、半壊が62棟、一部損壊が168棟。最も被害の大きかった宮城県では登録棟数312棟のうち117棟が全壊、43棟が半壊し、一部破損も92棟におよび、面積ベースで全体の8割強が被害を受けました。

被災地では、震災発生直後から続々と救援物資が届き始めました。宮城県倉庫協会の会長として県との協定に基づき物資の受け入れの陣頭指揮を執ったのが、倉青協の第14代会長、東邦運輸倉庫の黒川久社長です。宮倉協によると、当初救援物資の保管スペースとして400坪を用意し、4月3日には8000坪を確保したものの、満庫状態になり、救援物資の受け入れができなくなるなど保管スペースが圧倒的に不足する事態が起こりました。

救援物資の品名・荷姿がまちまちで、大量に搬入されるため、仕分け・検品・在庫管理ができないという問題も発生しました。救援物資の供給の反省点として、黒川社長は「被災者の具体的なニーズと在庫情報をマッチングできなかったこと」を挙げ、被災県外に物流加工機能や支援物資情報の一元管理機能を備えた「総合一時集積所」の必要性を提言しています。

救援物資の供給手段というと、物資を運ぶトラックがイメージされますが、被災者のニーズに合った物資を迅速かつ確実に届けるため、入庫・仕分け・検品・在庫管理・出庫など倉庫の機能がクローズアップされています。黒川社長のご提言にもあったように、県外の倉庫との連携は災害支援物資物流の円滑化のカギとなり、倉青協のネットワークが生かされることが期待されています。

## ●会員一丸となって復旧に取り組む

醍醐会長就任後、まず取り組んだのが、福島の会員の支援です。福島は、原発事故による放射線汚染や風評被害などが人々の暮らしや経済活動に深刻な影響をもたらしており、継続的支援を最も必要としていました。倉青協では8月に福島の会員への人的支援を実施。現地の状況を確認するとともに、パレットや荷物の積み替えなど復旧作業に従事しました。

**3月11日～4月10日までの動き**

| | |
|---|---|
| 3月11日 | 震災発生（午後14時46分） |
| 3月12日 | 震災の被害状況、安否について会員がメール、フェイスブックで情報収集 |
| 3月14日 | ◆支援物資の購入などに機運が高まる |
| 3月15日 | 倉青協事務局に対策本部設置 |
| | 札幌三信倉庫（北海道）から青森東邦運輸倉庫に備蓄品を青函フェリーで発送 |
| 3月16日 | 前山倉庫（茨城）、トラック24両を緊急車両に申請、東北道・常磐道を使用して法・東北方面への支援物資輸送体制が整う |
| | 倉青協対策本部から「対策について」通達・義援金の募集開始 |
| | ◆神明倉庫（神戸）から今後の必要となる生活物資についての助言 |
| | ◆白石倉庫（宮城）から必要な物資について情報発信 |
| | ◆燃料不足によりリレー輸送を検討 |
| | ◆茨城経由ルートに着目し、各地から前山倉庫に向けて物資を出荷 |
| | 倉青協有志による大量物資購入提案 |
| | ヤマウ鳥谷部臨港倉庫（青森）から青森東邦運輸倉庫にコメ発送 |
| | 谷川運輸倉庫（大阪）の「関西発便」第1便が出発。日本海ルート経由で協和運輸倉庫に輸送。若松梱包運輸倉庫（石川）、富山倉庫（富山）で物資を積み足し |
| 3月17日 | 関東周辺から集まった物資を積んで前山倉庫から「関東発便」の第1便が出発。白石倉庫へ（3月19日に第2便、27日に第3便、4月3日に第4便が出発） |
| 3月22日 | 谷川運輸倉庫の「関西発便」の第2便、淺野運輸倉庫（滋賀）で積み足し仙台へ |
| 4月10日 | 前山倉庫から「関東発便」の第5便が出発し。物的支援の第1弾が終了 |

## ●独自の物流ルートを構築

「被災した会員に物資を届けよう」――。淺野邦彦前会長の呼び掛けで全国から集まった物資を会員の拠点に集約し、倉青協としての支援活動の第1弾を開始しました。倉青協では、3月16日以降、救援物資を各地から調達し、谷川運輸倉庫（大阪）の「関西発便」と、前山倉庫（茨城）の「関東発便」の２つのルートを構築します。

「関東発便」は会員からの物資を前山倉庫に集約し、そこから常磐道・東北道経由で白石倉庫(宮城)に直送するもの。一方の「関西発便」は、主に関西以西から集まった物資を淺野運輸倉庫（滋賀）に集約し、前山倉庫を経由するかまたは白石倉庫に直送するルートです。

震災直後は燃料の確保（給油）が難しく、予備燃料を携行した救援物資輸送車両もありましたが、被災地における深刻な燃料不足を目の当たりにし、ドライバーが予備燃料を現地に寄付。復路はエコドライブで燃料使用を極力控え、協力先のインタンクで補給してもらい戻ってきたケースもありました。

独自の物流ルートを構築して始まった倉青協の物的支援は、全国ネットの在庫倉庫ならではの物量と品ぞろえを実現し、物資の「集約」と中継地での「積み足し」というまさにロジスティクスの機能により、「どこよりも早く、的確な」救援物資の供給を実現しました。関西から関東、東北へ、救援物資とともに倉青協の「きずな」のバトンが渡されていったのです。

## ●人的支援の第2弾は福島で、合計13人が参加

2011年8月8日、倉青協は6月に就任した醍醐会長の指揮の下、福島県の会員に対し、“人的支援”の第2弾を開始しました。12日までの5日間、醍醐倉庫、ウインローダー、ヤマウ鳥谷部臨港倉庫、富吉、ダイワコーポレーション、日本流通倉庫、阪南倉庫、白石倉庫の合計13人が参加しました。

東日本倉庫（福島）の須賀川倉庫（福島県須賀川市）で、午前8時45分から午後5時まで、コメ(30kg入りの紙袋)の破袋確認、袋の入れ替え、パレットへの積み作業などを行いました。ヘルメット、作業服、軍手は各自が持参し、万一の事故に備えて倉青協として損害保険に加入しました

参加者の宿泊にあたっては、前山倉庫（茨城）の温泉事業部が手掛けるコテージ付き温泉施設「のんびり温泉」（福島県郡山市）が格安料金で宿泊施設を提供し、倉庫までの送迎もサポートしました。また、自らも被災した白石倉庫（宮城）の太宰榮一社長も人的支援に駆け付けました。「仲間のために自分は何ができるか」――。倉青協の会員の思いが結集し、大きな支援の輪となりました。

## ●倉庫が社会的使命を果たすために

災害について学ぶことも重要なテーマとなっています。震災から1年が経った3月の全体会は、阪神淡路大震災を経験した神戸にて開催。倉青協OBで日本倉庫協会の森本啓久副会長から、阪神淡路大震災の経験や倉庫での地震の備えについて話を聞きました。また、阪神淡路大震災のメモリアル施設である「人とみらい防災センター」を見学しました。

東日本大震災を経験し、災害に強い倉庫、災害に負けない倉庫が社会的に求められています。施設の対策などハード面の備えはもちろんですが、倉青協の人と人とのつながりで結ばれた全国ネットワークなどソフトもまた、倉庫が社会的使命を果たす上で重要となってくるのではないでしょうか。



### 人的支援活動（I）状況

| クール | 期　間 | 作業従事者（人） | 作業者宿泊数（泊） |
|---|---|---|---|
| 第①クール | 平成23年4月13～15日 | 16 | 24 |
| 第②クール | 平成23年4月18～22日 | 56 | 61 |
| 第③クール | 平成23年4月25～28日 | 32 | 31 |
| 第④クール | 平成23年5月11～13日 | 9 | 10 |
| 第⑤クール | 平成23年5月16～20日 | 86 | 72 |
| 第⑥クール | 平成23年5月23～25日 | 42 | 32 |
| 合　計 | | 241 | 230 |

### 特別会計（I）【義援金】

収支決算書　平成23年3月15日～平成23年6月8日　（単位：円）

| | 項　目 | 金　額 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 収入の部 | 一般会計から拠出 | 500,000 | 平成22年度会計より |
| | 義援金（H22年度） | 2,040,000 | 会員28社、OB1社、他1社 |
| | 義援金（H23年度） | 590,050 | 会員9社 |
| | 合　計 | 3,130,050 | ―――― |
| 支出の部 | 救援物資輸送費 | 488,250 | 4社7運行分 |
| | 人的支援者傷害保険料 | 113,500 | 第①クール～第⑥クール期間中 |
| | 人的支援者宿泊費 | 2,276,300 | JALシティ仙台・モントレ仙台・モンテエルマーナ仙台 |
| | 義援金贈呈 | 252,000 | @84,000×3社 |
| | 合　計 | 3,130,050 | ―――― |

### 人的支援活動（II）状況

| クール | 期　間 | 作業従事者（人） | 作業者宿泊数（泊） |
|---|---|---|---|
| 第2クール | 平成23年8月8～12日 | 13 | 15 |
| 合　計 | | 13 | 15 |

### 特別会計（II）【義援金】

収支決算書　平成23年7月26日～平成23年11月9日　（単位：円）

| | 項　目 | 金　額 | 備　考 |
|---|---|---|---|
| 収入の部 | 義援金（H23年度） | 1,330,000 | 会員29社 |
| | 合　計 | 1,330,000 | ―――― |
| 支出の部 | 人的支援者傷害保険料 | 35,750 | 第②クール期間中 |
| | 福島人的支援者費 | 115,000 | 鶴我、夢一膳 |
| | 繰越金 | 1,179,250 | ―――― |
| | 合　計 | 1,330,000 | ―――― |

# 東日本大震災から2年 倉青協仙台大会

倉青協は2013年3月21日、第130回全体会（仙台大会）を開催しました。2011年6月の会長就任以来、「災害から学び、災害に備え、被災した会員を見守る」を重要テーマとして活動してきた醍醐会長は、震災から2年後の3月に仙台で全体会を開催することを提案。運営委員会や東北地区会員の協力により、2年越しの企画として仙台大会が実現し、地方大会としては異例の87人が参加し、被災地の視察や被災した会員からの報告会が行われました。「東北の復旧・復興を見届け、応援しよう!」――。東北の地で倉青協メンバーはその「きずな」を一層強くし、醍醐会長から曽根和光次期会長にバトンが渡されたのです。

## ●日和山神社で献花し、仙台港地区を視察

1日目は全体会に先立ち仙台港地区の視察が行われました。最初に訪れたのは、宮城県名取市の閖上（ゆりあげ）地区。同地区は全国有数の赤貝の産地で漁港として栄えてきましたが、震災による津波で壊滅し、多くの命が失われ、更地となったままです。同地区を見渡す日和山神社で、醍醐会長が献花を捧げ、全員で犠牲者の冥福を祈りました。

日和山神社で献花を捧げる醍醐会長

津波で壊滅的被害を受けた閖上地区を見渡す

閖上地区には人々の暮らしの跡がわずかに残るだけ



# 東北の復旧・復興を見届け、応援しよう！

続いて向かったのが仙台港地区。被災した会員およびOBの倉庫をバスから見学しました。震災直後、荷崩れや火災等の大きな被害を受けた倉庫の写真と現在の様子を見比べると、着実に復旧が進んでいることが分かります。白石倉庫仙台港営業所では、倉青協の義援金で立てた「ガンバろう東北!頑張ろう!!仙台港」の看板を見ることができました。

東邦運輸倉庫の仙台港支店の再建も進む

白石倉庫の前には、復興を誓う看板が設置されている

1日目の視察の最後に、仙台港一望を見渡せる仙台港サイロを訪問。同社の大元洋一社長からは、仙台港は東北のゲートウェーとして優先的に復旧が進められ、コンテナヤードの取扱量は回復しているものの、周辺農家の離農等の影響によりサイロ事業は震災前の水準に戻っていないとの説明がありました。

赤色の矢印は津波が到達した高さ。
震災の怖さを実感（仙台港サイロ）

## ●東北の会員が復旧に向けた取り組みを報告

全体会では国土交通省東北運輸局の長谷川伸一局長、東北倉庫協会連合会の黒川久会長からご挨拶をいただきました。長谷川局長からは、東日本大震災が災害に強い物流システム構築へのきっかけになったとの指摘があり、黒川会長からは「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業」が被災した倉庫の建て替えに寄与していることなどが紹介されました。

国土交通省の金井昭彦大臣官房参事官は講演で、「災害に強い物流システムの構築」の取り組みとして、民間物資拠点のリストアップ、官民の協力協定の締結促進について報告。また、環境負荷低減等に資する物流施設にかかる税制特例について、対象施設の要件に一定の防災対策の実施を加えた形で適用期限の2年延長が決まったことを説明しました。

東北を本拠とし、震災で大きな被害を受けた協和運輸倉庫の髙橋大輔社長、センコン物流の久保田賢二取締役常務執行役員、白石倉庫の太宰榮一社長が震災直後の状況と復旧・復興に向けた活動について報告。
全国ネットワークを活用した倉青協会員の支援についてエピソードを紹介。

## ◆「電源復旧の影に倉青協のネットワークあり」

協和運輸倉庫　**髙橋 大輔** 社長

「電源基地となるキュービクルが地震で壊れ、その復旧の影には倉青協のネットワークがあった。キュービクルの修理には、富山県からの部品の調達が必要で、谷川運輸倉庫（大阪）の谷川隆史常務に携帯電話で相談。16 日にトラックが手配され、富山倉庫（富山）、若松梱包運輸倉庫（石川）を経由して支援物資とともに部品が届き、翌日に電源が復旧した。電源復旧までに1、2ヵ月かかっていたらどうなっていたか…」

倉青協の支援に社員も感謝

- 津波・ライフラインのストップは想定外だったのが反省点
- 賃借している倉庫の復旧に関して、賃借先と方針にギャップがあった
- BCPの定期的な検討は必要だが、想定外の場合には期待した効果が得られないこともある
- 災害時には人命を守るために強いリーダーシップと的確な指示が必要
- 「上を向いて前に進む」「社員を守る」という強いハートを持とう

## ◆「倉青協が4つの奇跡をもたらした!」

センコン物流　**久保田 賢二** 取締役常務執行役員

「1つは、前山倉庫の前山諭社長の助言で震災直後に緊急車両通行許可証を申請し、日本海側での給油やトラックの100%稼働が可能になり、経営面での2次災害を免れた。2つ目に、復旧が後回しになっていた穀物倉庫の片付けに際し、倉青協の人的支援を受けることができた。3つ目として、東北倉庫協会連合会の黒川久会長の依頼により、被害のなかった倉庫で災害支援物資を受け入れ、作業員をあそばせることなく稼働できた。さらに4つ目として、中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業の支援を受けられた。これらはまさに奇跡だ」

震災に負けず元気を出そう! と自分に喝

- 倉庫の種類ごとに優先順位を付けて復旧に取り組んだ
- 港の倉庫のガレキの撤去では除雪車が有効活用できた
- 利用できる車両、倉庫を稼動させることでノーリストラを実現
- 復興需要に応え、運送事業ではダンプ事業にも進出
- 補助制度を活用して倉庫を新設し、復旧・復興プラスアルファに挑戦している

## ◆「倉青協への第1報はiPadから」

白石倉庫　**太宰 榮一** 社長

「震災直後は電話などの通信機器が使えなくなり、iPadが役に立った。倉青協メンバーへの第1報もiPadからだった。現地の被災状況や必要とされている物資についてメーリングリストに送信できた。」（なお、当時、太宰氏からメンバーの支援に対して送られたメールにはこうありました。『真冬のような吹雪の中、到着してくれたトラックの到着は、厳しい被災地の折れそうな社員の心に火をともして頂けました』）

移動中の車内では「ボイスパケットトランシーバー」のデモも行われた

- 震災後、100%の補助制度を活用し、コメ用の「色彩選別機」、「放射能測定器」を購入した
- 震災直後、一時的に治安が悪化したが、倉庫をきれいにする、片付けることで改善できた
- サブリース物件はオーナーとテナントの間に入って調整することが必要
- ネステナーは震度6強になると被害が大きい
- 倉庫業の地震共済制度などを設けてはどうか



## ●2日目は復興の遅れもみられる三陸沿岸へ

「復興屋台村」で東北の味を堪能

2日目は、三陸沿岸の被災地の視察に 59 人が参加しました。陸前高田市～気仙沼市～南三陸町～石巻港～仙台空港・仙台駅と南下するルートで、倉青協OBで気仙沼市議会の臼井真人議長（臼真倉庫社長）も視察バスに同乗し、被災地の現状を説明。昼食は、昭和 30 年代に屋台が軒を連ねていた場所に、現在は仮設店舗として運営している「復興屋台村」で東北の味を楽しみました。

交通網の回復の遅れも目立つ

臼井氏の説明によると、気仙沼市では住宅の復旧のために堤防の建設や盛土かさ上げの計画もあるが、何年後に実現するかのメドが立っておらず、町全体が津波で流されたため、大規模な用地が必要で高台への移転も進んでいないということです。仙台市街地に比べると、沿岸部の復旧・復興にはまだ時間がかかっていることがうかがえます。

赤い鉄骨だけが残った防災対策庁舎

南三陸町では防災対策庁舎を訪問しました。地震発生後、職員は津波を想定して「高台へ避難してください」と防災無線で町民に呼び掛け続けましたが、3階建て庁舎屋上を上回る高さの津波に襲われ、多くの職員が亡くなった場所です。赤い鉄骨だけが残った庁舎に設けられた献花台に醍醐会長が献花を捧げました。

日本製紙石巻工場

続いて向かった石巻港では、日本製紙石巻工場で煙突から煙が上がっている様子が目を引きました。2年前の震災直後、倉青協有志で仙台港と石巻港を視察した際、石巻工場は津波被害でいつ再稼働できるか分からない状態でした。同工場は 2012年8月末に全生産ラインが復旧。2013年2月には鉄道による出荷も再開し、地域の復興の下支えになっています。

2日間の仙台大会を終えた醍醐会長は「災害から学び、災害に備え、被災した会員を見守る」を重点テーマとして活動してきた2年間の任期を振り返り、「震災から1年後の3月に阪神淡路大震災を経験した神戸、2年後の3月に東日本大震災のあった仙台で全体会を開催したことは、震災に対する備えが必要との認識を強くした」と強調しています。

さらに、こう続けています。「日本は地震大国で、いつどこで大地震が起きてもおかしくない。それに対し備えることが日本に対する貢献につながる。震災が起きたら、いち早く倉庫の現状を復旧させ、支援物資を受け入れ、避難場所に持っていく――。こうした一次拠点機能を担っていくためには、個々の会社の備えだけでなく同業者の連携も必要だ。」

# あとがき

未来を100%予測することは難しい。しかし、その不確実な未来に向かって、果断なチャレンジを続ける集団がいる。経営者である。経営とは未来への決断の連続であるから、未来とは即ち、経営者の不断の努力が結実した、創造物であるといえよう。

創造の結果を確実にするべく勉強し、不測の事態に対応できるよう、心身を鍛錬する。しかし、やはり確度は100%になどならない。失敗と挫折を繰り返し、悩む。課題は目前に微動だにせず存在し、自分が未だスタート地点に居ることに気付き愕然とするだけだ。無限に続く闇の中を歩くようだと思うことさえ、経営者という生き物には良くあることだろう。

救いは、仲間がいる事ではないか。無論、仲間も正解など知り得ない。だが、同じ類の課題を持ち、悩みも喜びも共有できる仲間の存在こそは、この厳しい経営者ロードを渡り行く上で、必ず助けとなると信じる。

このたび、数多くの“仲間（恐れ多いが敢えてこう呼ばせて頂きたい）”に多大なるご支援を賜り、この記念誌を上梓する事が出来た——

倉青協のトップであり、卓越したパワーとカリスマで、協会をバリバリと引っ張り、そして温かく導いて下さった第19代醍醐正明会長。この二年間、40周年記念準備委員長として会長のお仕事ぶりを近くで拝見させて頂きました。会長のリーダーシップなくしては、この事業は成立しなかったと確信します。ありがとうございます。

編集のプロとしての経歴をお持ちの鳥谷部眞実副会長、全くの素人である我々に編集のイロハを教えて下さり、そして鋭い洞察眼と緻密な文章力とで、誰よりもたくさんの校正作業を行って下さいました。また、温かく人を包み込む優しさで、チームをまとめて下さいました。後輩編集者として、深い憧憬と感謝の念を捧げます。

株式会社カーゴ・ジャパンの石井麻理さん、業界紙記者としての経験、知識、業界への深い愛情と理解と、幅広いネットワークで幾度となく我々を助けて下さいました。特に年表の校正には多大なるご尽力を頂きました。また、取材への高い機動力と高速な文章作成、確かなプロのお仕事、いろいろ学ばせて頂きました。

株式会社エイエイピーの二宮敏さん、優秀なチームを統括し、いつも斬新な企画がつまった校正紙をお持ち下さいました。また、カメラマンの皆さんも、各地へ取材に来てくださいました。スケジュール進行に関する的確なアドバイス、出来上がりを想像できるように指摘しながらの編集会議、お顔を拝見するたびに、どれだけ勇気づけられたか分かりません。

40周年記念準備委員会の皆様、遠方各地より何度もお集まり頂き、手探り状態の委員会運営進行、まさに叡智を結集し仕事を進めて下さいました。深謝します。

歴代会長の皆様、座談会ご参加ありがとうございます。皆様の熱い思い、理念、うまく文章に出来ましたでしょうか。現在も企業・業界のトップである先輩方の言葉にならないパワーも頂きました。必ずや後輩たちに伝えるよう想いを新たに致しました。

ご寄稿下さった皆様、お忙しい中、協会への熱い思いをしたためて下さいましてありがとうございます。皆様の経営観がいっぱい詰まった文章は、私達自身のみならず、将来の後輩たちの大切なひらめきとなり、協会だけでなく、業界の発展に役立つこと間違いありません。

東北地区の皆様、貴重なご資料やご体験談…困難な状況下にも関わらず、信念を以て共有して下さいまして、深く感謝致します。皆様の不屈の闘志、確かに頂きました。

執行部を始めとして協会の皆様、OB先輩の皆様、当協会にご縁を頂いて10余年、たくさんの素晴らしいご縁を頂き、たくさんの知見と事業へのインスピレーションを頂きました。時には一緒に苦しみ、時には笑いあい、未熟な私がこの仕事を完遂出来たのは本当に皆様のおかげです

そのほか書ききれない、さまざまな問い合わせに快くお答えくださいました、会員の皆様、各種団体、省庁の皆様、貴重なご資料のお貸出しも含め、ここに深謝致します。

最後に、（株）富士ロジテック秘書課　海野郁恵さん、あなたというスーパーバイザー無くしては、怠慢な委員長のもとでは、このプロジェクトは1ミリも進行しなかったでしょう。明るい朗らかなお人柄で、部門間の連携や渉外にお力を発揮頂きましたこと、深い感謝を捧げます——

最後に、協会創立時の先輩方の言葉を引用したい。「（倉青協は）物流革新下の倉庫業の将来あるべき姿についての若者同士の模索の場である」「（既存の業界に）熟年の方々が多く、地区の方々同士以外は全くといっていい程話し合うことがなく、また会議もセレモニー的で何か物足りなさを感じていた。（中略）この様なことではいけない。」若い経営者が、大企業に迎合することなく、業界の潮流といった『右へ倣え』の怠惰な経営と一線を画し、また実際に経営を試し、修練の場として、研鑽を行う場として、当協会は創立されたのである。

私も10年前に倉青協に参加し、先輩方の独自性、自主性など、模範となる経営者の息吹を、勉強会や親睦会を通じて学び、当時独りで抱えていた自社事業に対する悩みや、業界で生きていく事への悩みに覚悟が出来、自立した。

「経営者は孤独な生き物」かも知れないが、仲間との合作は大きな力を生む。協力は無限の可能性を生む。熱い想いが詰まったこの本は、たった今完成したばかりだが、長い時間をかけて、多くの人に届き、協会の理念を伝え、業界の悩める青年経営者や社員の役に立つと信じる。この与えられし機会に重ねて深く感謝する。

経営者にとっても、決断した結果が評価されるのはずっと先の事であろう。見届けることは稀であろうが、幸いなことに青年には有り余る時間がある。未来を創出するのは確かに青年なのだ。

倉青協が創出する次のステージと、全人類の未来に、多大な幸のあらんことを。

さぁ、Action for next stage!

40周年記念準備委員長　鈴木庸介

Young Warehouse

倉庫業青年経営者協議会